

Area Vision

松本城 三の丸 エリアビジョン

松本市 令和4年3月

Contents

序章	エリアの豊かなシーン	3
第1章	ビジョンの基本的な考え方	6
第2章	ビジョンの位置付け / 策定経緯	11
第3章	エリアの現状と潜在力	17
第4章	エリアの目指す姿	28
第5章	界隈ごとの目指す姿	35
第6章	ビジョンの実現に向けて	56
終章	終わりに	60



このビジョンの使い方

一人一人の想いが育てる エリアの道標

このビジョンは、エリアに関わる皆さんと共につくってきました。様々な方の想いを重ね合わせ、それを目指す姿として描いています。

ただ、ここに描かれた内容だけがエリアの目指す姿ではありません。ビジョンを手にとったあなたがその想いを新たに加えていくことで、このビジョンは育っていきます。

そして、描かれたシーンを実現していくのは、エリアに暮らし、関わる私たち自身です。松本に暮らす方、働く方、松本を愛する方など様々な属性の方と行政が一体となり、それぞれの得意分野を活かして描いたシーンを1つずつ実現していきましょう。

STEP1

エリアの豊かなシーンを
想像してみる

STEP2

シーンに共感する
仲間を見つける

STEP3

実際に小さな
チャレンジをしてみる

描いた豊かなシーンを
少しずつ実現していく

Introduction

序章

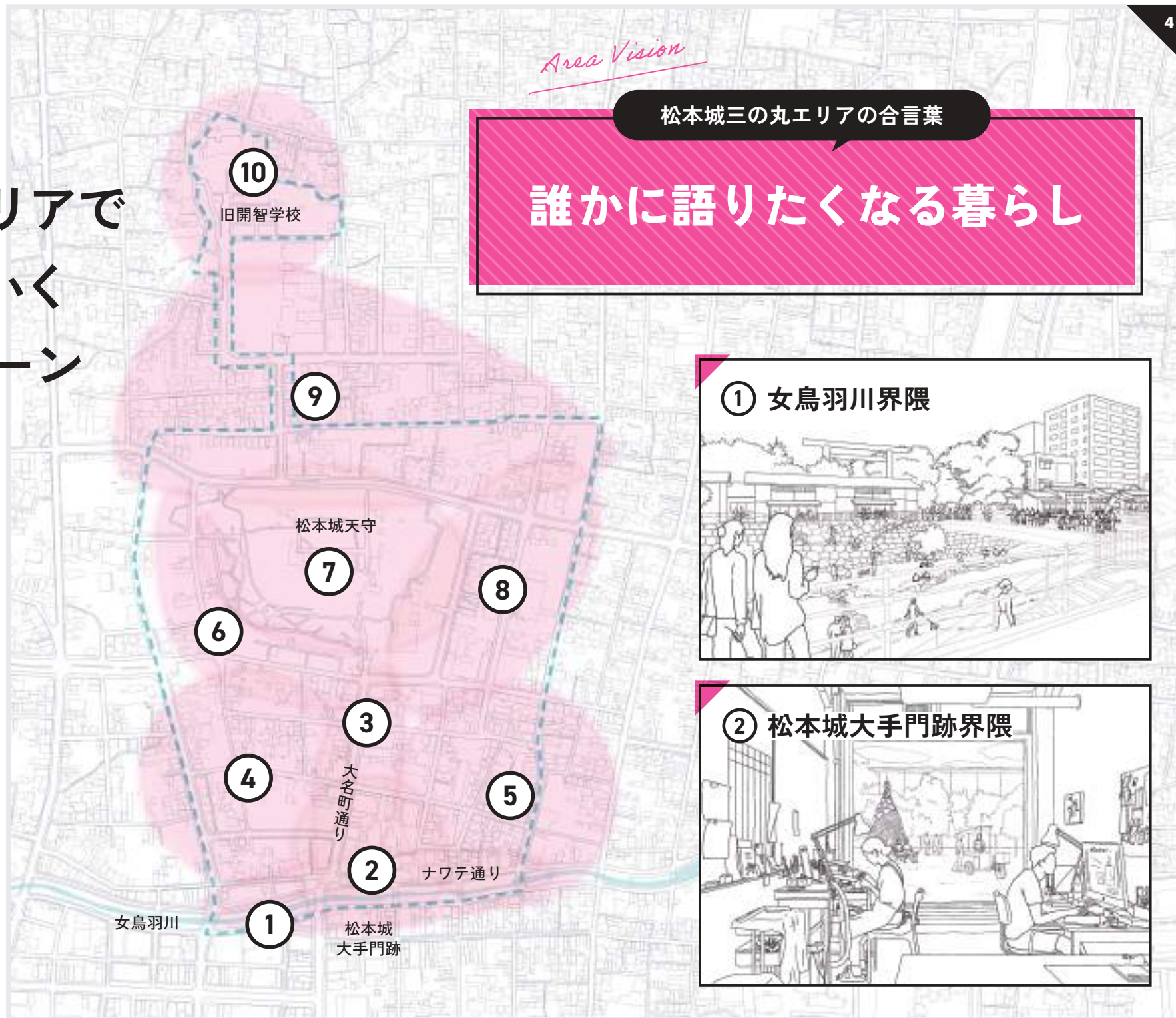
エリアの豊かなシーン

松本城 三の丸エリアで 実現していく 豊かなシーン

Area Vision

松本城三の丸エリアの合言葉

誰かに語りたくなる暮らし



① 女鳥羽川界限



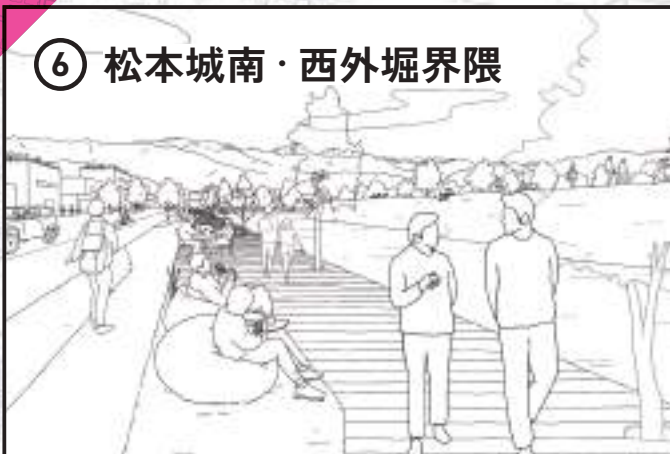
② 松本城大手門跡界限



③ 大名町界隈



⑥ 松本城南・西外堀界隈



— 取組みを推進する10の界隈 —

松本城三の丸エリア
"The Power of 10"

④ 土井尻界隈



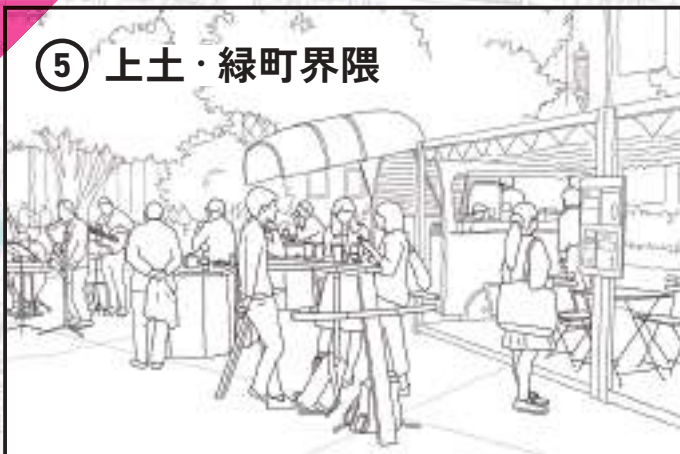
⑦ 松本城二の丸界隈



⑨ 鷹匠町・北馬場界隈



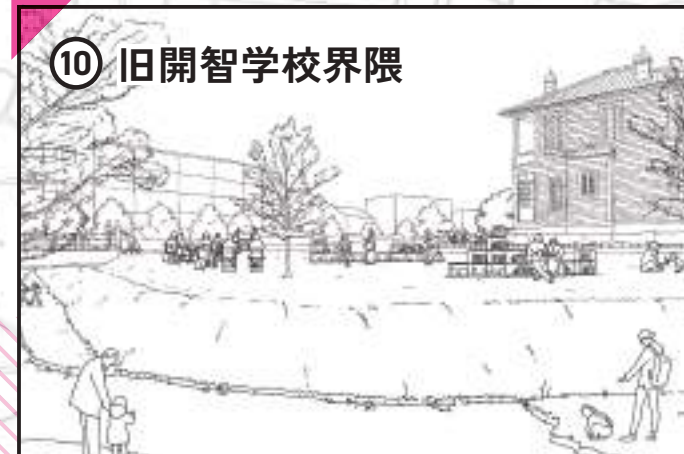
⑤ 上土・緑町界隈



⑧ 地蔵清水・柳町界隈

今後の方向性はエリアに想いを
寄せる皆さんと検討していきます。

⑩ 旧開智学校界隈





1

第1章

ビジョンの基本的な考え方

VISION



エリアが目指す暮らし

松本城三の丸エリアの合言葉

誰かに語りたくなる暮らし

松本城三の丸エリアで目指すのは、お気に入りの居場所を持つことができ、会いたいと思える人がたくさんいて、チャレンジしなくなるような環境です。そして、それらの喜びをお互いに語り合うことでまちへの愛着が生まれ、何気ない日々の暮らしを楽しむ心地よさが育まれていきます。



何気ない日々の暮らしを楽しむ

豊かな自然、多様な文化、人とのつながりに囲まれて暮らす。生活を彩るのは人・物・事との
「偶然の出会い」



お気に入りの居場所がある

いつものカフェや水辺の遊び場、音楽仲間が集う店。お気に入りの居場所を複数持てる
「選択肢の多様さ」



チャレンジしたくなる

趣味仲間や芸術家、起業家など、表現したい人、挑戦したい人の自由な発想と活動を受け入れてくれる
「寛容さ」



街の物語を感じられる

歴史や文化や多種多様な感性。松本に暮らす喜びをお互いに語り合うことで醸成される
「街への愛着」



会いたい人がいる

素敵な飲食店やショップのオーナー、若手の作家さんや山登りの仲間。趣味嗜好で繋がっていく
「顔が見える繋がり」

暮らしの豊かさが人を惹きつける

「誰かに語りたくなる暮らし」は、訪れる人にとっても魅力的

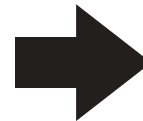
地元の人々の豊かな暮らしのシーンは、他の街から訪れる人にとって憧れとして映るでしょう。

エリアで目指す「誰かに語りたくなる暮らし」を実現することは、訪れる人にとって何度でも通いたくなる街へとつながります。

松本城三の丸エリアの合言葉

誰かに 語りたくなる暮らし

- 何気ない日々の暮らしを楽しむ
- お気に入りの居場所がある
- チャレンジしたくなる
- 街の物語を感じられる
- 会いたい人がいる



何度でも 通いたくなる街

- 表情豊かな四季に合わせた豊かな暮らしや松本ならではの催事などを通したとびきりの体験
- 変わらないものと変わるものがちょうどよく共生する街は、訪れる人にとって何度でも通いたくなる街

基本方針

地元の人「誰かに語りたくなる暮らし」をつくる。

そして、訪れる人が何度でも通いたくなる街を目指す。



暮らす人

エリアに暮らす人が
街の魅力を語ることで、
それは訪れる人への「おもてなし」

目指すこと

地元の人にとって
より豊かで魅力的な暮らし

暮らす人と訪れる人が
居心地良く共生し、愛される

松本城三の丸エリア

暮らしの場

「誰かに語りたくなる暮らし」
がある街

+

観光の場

何度でも通いたくなる街



訪れる人

エリアを訪れる人が
街の魅力を語ることで、
それは全国・世界への「発信」

副次的に得られること

訪れる人にとっても
魅力的な体験ができる環境

用語の整理

エリアを捉える言葉たち

「誰かに語りたくなる暮らし」を目指す上で大切な言葉を解説します。

これらの言葉を投げ所に
目指すべき姿
を考えます

暮らし

「住まう」「働く」「遊ぶ」「憩う」「学ぶ」などの日常の生活を構成している要素を総称して、「暮らし」と呼びます。

界限

様々な業種や人々の活動が集積し、一体的な雰囲気醸し出しているまとまりを持った場所・一帯を「界限」と呼びます。

シーン

ある空間や背景となる景色と人々の活動とが一体のものとして印象的に立ち現れてくる情景を「シーン」と呼びます。

プラン

描いたビジョンを実現するために、何を、誰が、いつ、どこで、どのように、実行していくかをまとめた計画を指します。

プレイスメイキング

街の様々な空間を人々の居場所にするために、地域の人々が、地域の資源を用いて、地域のために取り組む都市デザインの方法の名称です。

社会実験

想像したシーンを実現するための仮説を立て、それを段階的に試行・検証し、定常的な取組みへと繋げていく方法のことを指します。

The Power of 10

プレイスメイキングの中で使われる街の魅力づくりの考え方。
10以上の「アクティビティ」が共生している場合は豊かな「場所・界限」となり、
10以上の豊かな「場所・界限」が集まることで個性的な「エリア」となり、
10以上の「エリア」が集まることで魅力的な「市街地」を形成する という考え方です。

パイロット・プロジェクト

先行的・試行的に進める取組みのことを指します。その取組みを通じて、以降の取組内容や他のプロジェクトへの展開などを検討します。



VISION

2

第2章

ビジョンの位置付け / 策定経緯



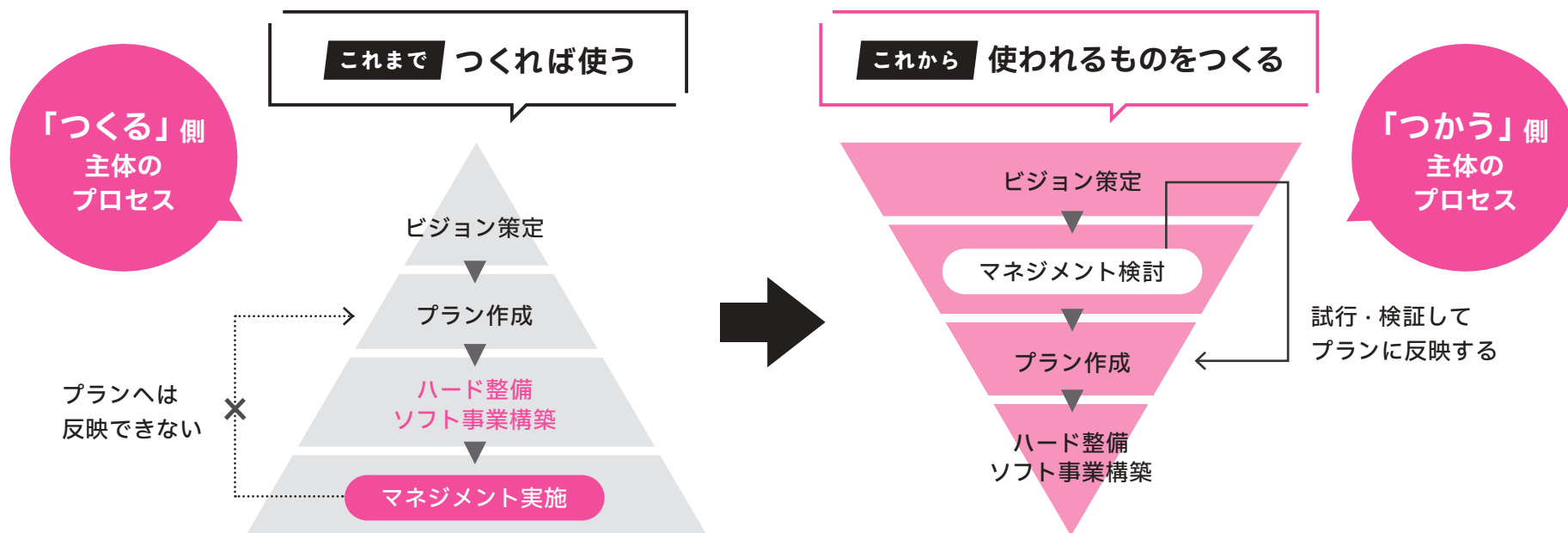
これからのまちづくり

「つくる」→「つかう」から、「つかう」→「つくる」へ

これまでのまちづくりは、主に行政が「つくる」側の主体となってプランを練り、ハード整備を先行し、できたモノを維持管理することが一般的でした。しかし、作ったモノが街の実情と合わず、使われない空間になってしまうことも少なくありませんでした。

これからのまちづくりは、変化が激しい時代に柔軟に対応していくことが求められています。そういった時代では、**担い手となる民間（暮らす方 / 地域組織 / 民間企業など）の「つかう」側が主体となってビジョンを掲げ、自立したマネジメントの在り方を見据えながら小さく試行と検証を重ねていくことが大切です。**その検証結果をプラン作成やハード整備に反映することで、街の実情に合った効果的な取組みが実現できます。

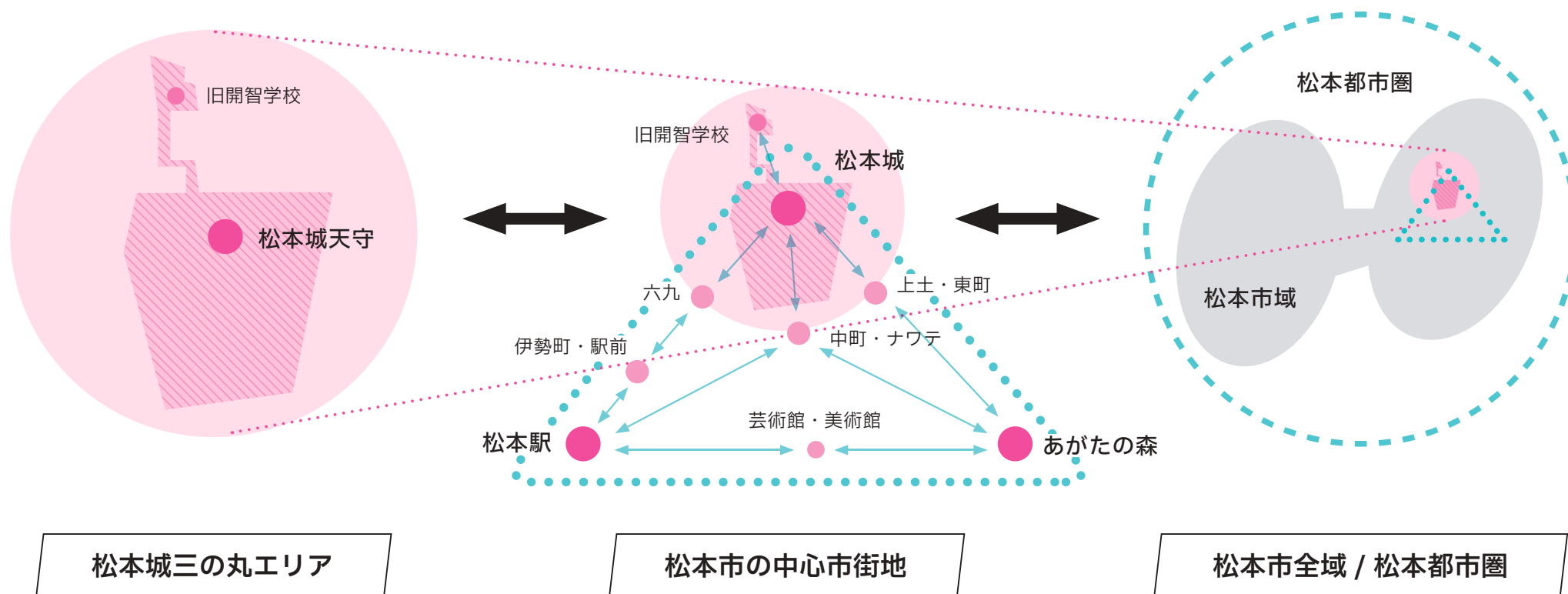
このビジョンは、ハード中心の固定的な在り方を示すのではなく、私たちが街を「つかう」イメージを共有することを目指しています。



ビジョンが目指すもの

暮らしの魅力を育て、界隈－エリア－中心市街地、そして松本都市圏へ

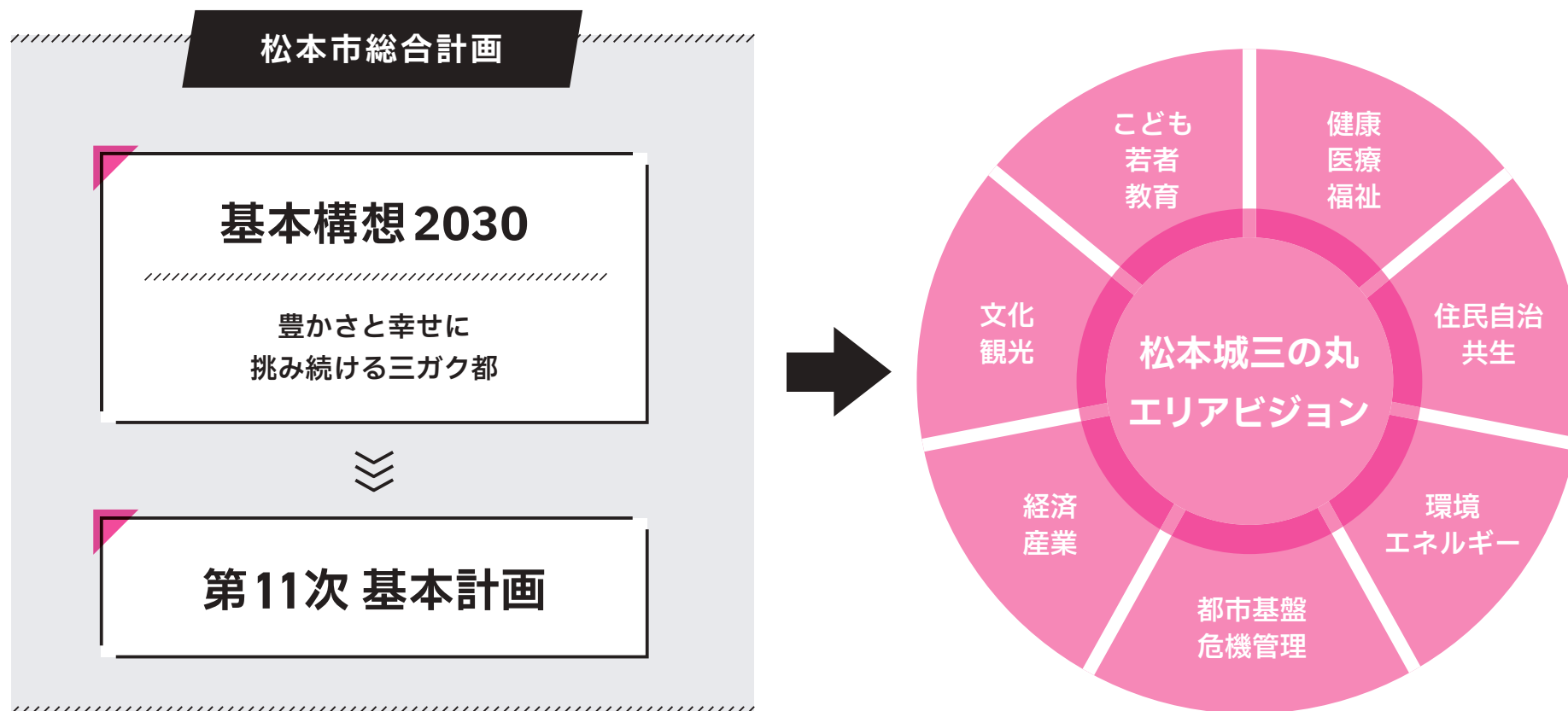
このビジョンでは、かつて総掘で囲まれた松本城三の丸と、昭和39年に移築復元された旧開智学校周辺を合わせて「松本城三の丸エリア」としました。このエリアは、中心市街地の回遊動線の骨格を成す「城・駅・森のトライアングルエリア」の一角を担っています。そのため、中心市街地全体の都市構造・交通体系を把握し、周辺エリアとの関係性も考慮した上で、エリアの目指す姿やエリア内の小さな界隈を基準とした魅力づくりを検討しました。それらの取組みは小さなスケールからのスタートですが、将来的には松本都市圏、全国、そして世界から訪れる人へと伝わる魅力を育てます。



ビジョンの位置付け

総合計画に基づく各種計画を横断・橋渡しするビジョン

このビジョンは、松本市総合計画・基本構想 2030 の基本理念に掲げた三ガク都に象徴される松本らしさの「シンカ」（進化・深化）の具現化に向けて、松本城三の丸周辺エリアに関わる各種計画を横断し、分野の隙間を橋渡しする取組みの拠り所とします。



ビジョン策定の経緯

様々な形で紡いだ街の方々の声

ビジョンの検討に当たり、様々な形で街の方々の声を集め、意見の把握に努めました。

地域組織・事業者ヒアリング

エリア内に関しては、暮らし働く方々、まちづくりに関わる地域組織、エリアに関わる地元事業者などの皆さんにヒアリングを行いました。

小中高生・市民アンケート

エリア周辺の範囲では、市立・県立の学校に通う小学生・中学生・高校生がアンケート調査に協力してくれました。そして市内全域を対象としたWEBアンケートでは1,000人の市民の皆さんの意見を集約し、それぞれビジョン検討に反映しました。

アドバイザー（専門家）による技術的助言

複数の専門分野を横断した検討が必要なため、都市デザイン、歴史・世界遺産、交通、公民連携の4人のアドバイザーから技術的助言を受け検討を進めてきました。

庁内検討（庁内プロジェクトチーム）

ビジョン実現に関わる庁内関係部署と意見交換を実施し、各種計画との連携・調整を図りました。

市民アンケート

市内全域を対象とした市民 1000名



小中高生アンケート

将来を担う児童・生徒 758名

【小学校5年生】

開智小学校
旭町小学校
清水小学校
源池小学校
田川小学校
(243名)

【中学校2年生】

丸ノ内中学校
清水中学校
旭町中学校
山辺中学校
(291名)

【高校2年生】

松本蟻ヶ崎高等学校
松本県ヶ丘高等学校
松本深志高等学校
松本工業高等学校
(224名)

地域組織・事業者ヒアリング



エリア内の暮らし働く方々、まちづくりに関わる地域組織、地元事業者など（約170名）

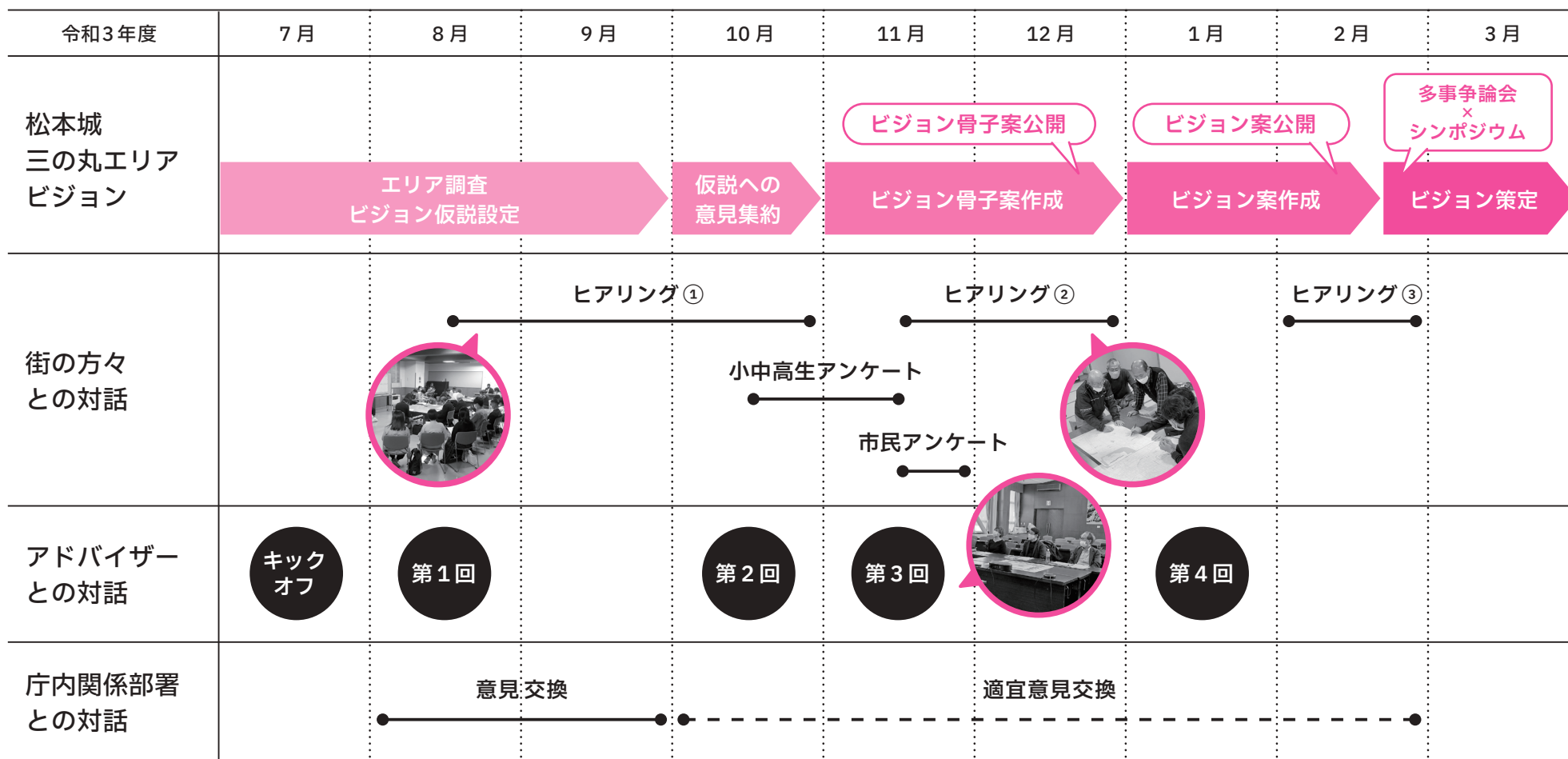
アドバイザーによる
技術的助言

庁内検討
（庁内プロジェクトチーム）

ビジョン策定の経緯

対話を積み重ね、ともに作り上げる

様々な形で、街に暮らし働く方々、アドバイザー、庁内関係部署と対話を積み重ねてこのビジョンを共に作り上げました。
関わっていただいた皆さま、ありがとうございました。





VISION

3

第3章

エリアの現状と潜在力



エリアの現状と潜在力

エリアのこれまでとこれから

松本城三の丸エリアは、古くから松本の街の中心地としての役割を担ってきました。その中で、時代に応じた都市機能の変化を重ねてきたことにより、都市構造や建築物などに様々な時代の面影を感じることができます。それらの歴史を尊重しながら、これからの時代にあった新たな役割を持つエリアを目指します。

これから

誰かに語りたくなる暮らしの場

かつての姿を復元するだけでなく、これまでの歴史の蓄積や地域の風土、多様な文化を支える人材に根差した「誰かに語りたくなる暮らし」の場を目指します。そして、訪れる人にとっても「何度でも通いたくなる街」へとつながります。

現代

商業的中心性は駅側へ移行

時代の流れの中で、商業的な中心は松本駅周辺へ移っていきました。また、業務地としての役割は縮小傾向にあり、まちなかで暮らす魅力を感じにくくなっています。

近代以降

行政の中心地 業務・商店・住宅の集積

総堀のほとんどと外堀の一部は埋め立てられ、近代化とともに三の丸は城下町と一体化されました。そして、金融や行政などの業務地を中心として、商店・住宅が集積する暮らしの場となっていました。

近世

松本城城下町の形成

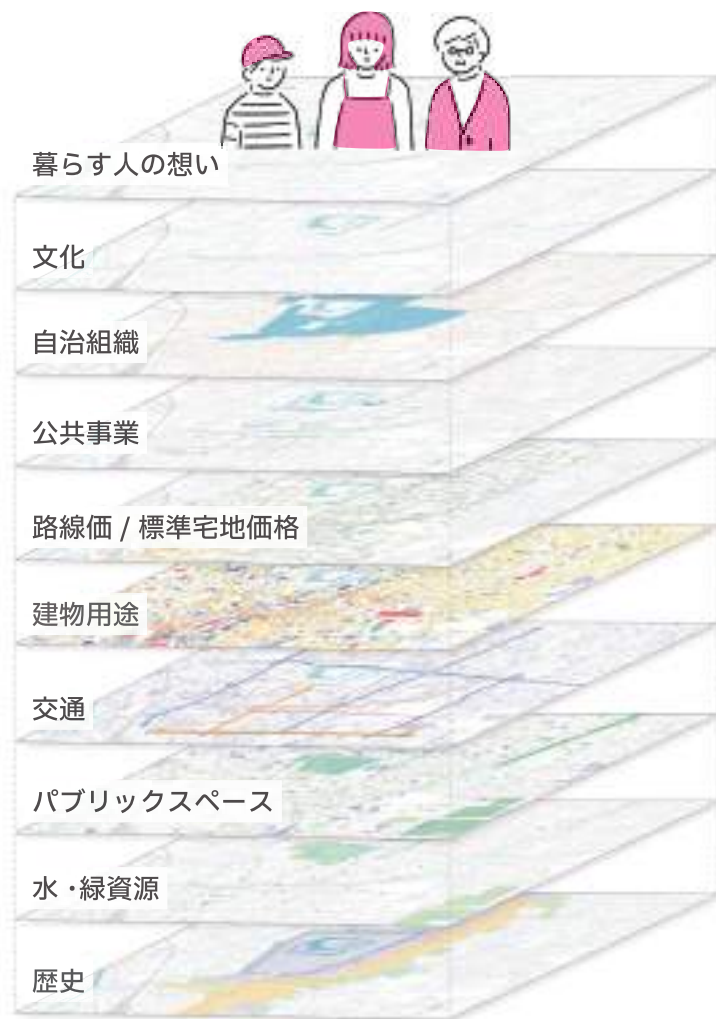
松本城は三重の水堀（内堀、外堀、総堀）で囲まれ、本丸、二の丸、三の丸で城郭を形成していました。三の丸には上級家臣の屋敷が配置され、その外側に町人地などの城下町が広がっていました。



エリアの現状と潜在力

エリアを捉える切り口

松本城三の丸エリアのビジョンを描くために、エリアの現状と潜在力を把握することが大切です。課題を解決することも重要ですが、まずはエリアが持っている潜在力に目を向け、強みを伸ばす取り組みから始めます。



暮らす人の想い	街で暮らす人の想いの把握
文化	文化的営みの把握
自治組織	地元の組織の把握
公共事業	主な公共事業の状況の把握
路線価 / 標準宅地価格	土地の価格の把握
建物用途	現在の建物の使われ方の把握
交通	交通の状況・計画の把握
パブリックスペース	誰もが使える空間の把握
水・緑資源	水や緑の状況の把握
歴史	江戸時代以降の街の歴史の把握

エリアの捉え方【歴史】

小学校田町部
明治 43 (1910) 年
松本市立病院
昭和 2 (1928) 年
旧開智学校移築
昭和 39 (1964) 年

旧開智学校

小学校や病院立地による都市化
旧開智学校が女鳥羽川左岸から移築

歴史的な市街地 城下町（武家地・町人地）

近代化事業が行われなかった
城下町市街地

松本城（武家地）

16 世紀前半 深志城（周辺の町の存在）
16 世紀後半 - 松本城

近代

政治行政 / 近代教育の中心地
業務 / 料亭・映画等文化の集積

現代

政治行政の中心地
金融機関・飲食店の集積が残る

歴史的な商業中心 城下町（町人地）

近代化事業が行われなかった
城下町商業地

鉄道開通による商業地化

松本駅開業による都市化 松本駅

明治 35 (1902) 年～
区画整理
昭和 42 (1967) 年～

歴史的な商業中心 城下町（町人地）

16 世紀後半～

近代産業や学校立地による都市化

旧片倉製糸場
明治 23 (1890) 年～

イオンモール松本
平成 29 (2017) 年～

旧制松本高等学校
大正 9 (1920) 年～

あがたの森文化会館
あがたの森公園

歴史ある街の中心地

- 松本藩、城下町の中心地としての松本城の歴史
- 近代でも政治行政の中心地となり、料亭や映画館等の文化的機能も集積、現代においては、行政施設や金融機関を始めとした政治・業務機能が集積
- 松本城周辺は近代教育普及の拠点的作用を果たし、旧開智学校はあがたの森周辺と共に「学都松本」の象徴的存在
- 松本城天守、旧開智学校校舎という 2 つの国宝に加え、文化財登録された民間建物なども点在する歴史を感じられるエリア

■ 武家地
■ 町人地
■ 寺社地

エリアの捉え方【建物用途】



旧開智学校

松本城天守

公共施設
業務
店舗
住宅

行政・業務中心の機能集積

- 市役所周辺及び大名町通りを中心に、公共施設や金融機関などの業務系用途が分布しており一定の昼間人口が集積
- エリアの東側、南側には地元客・観光客双方が訪れる商業の中心が存在
- エリアの西側、北側の土地利用は住宅や病院などの生活基盤となる機能が主

大規模商業
飲食店
業務

小規模店舗
業務
住宅

大規模商業
公園
学校
住宅

松本駅

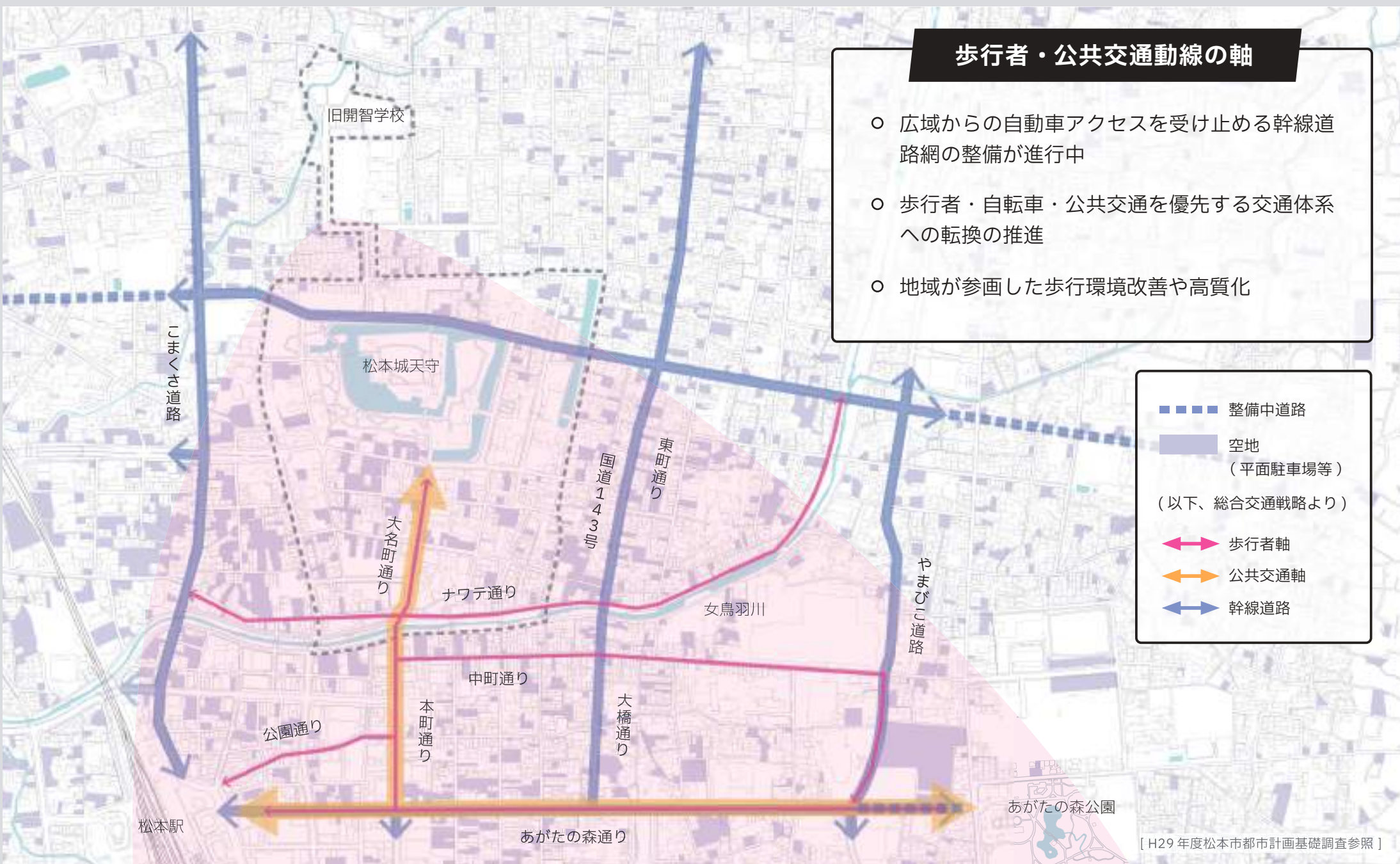
あがたの森公園

エリアの捉え方【交通】

歩行者・公共交通動線の軸

- 広域からの自動車アクセスを受け止める幹線道路網の整備が進行中
- 歩行者・自転車・公共交通を優先する交通体系への転換の推進
- 地域が参画した歩行環境改善や高質化

- 整備中道路
- 空地
(平面駐車場等)
- (以下、総合交通戦略より)
- ⇄ 歩行者軸
- ⇄ 公共交通軸
- ⇄ 幹線道路



エリアの捉え方【路線価 / 標準宅地価格】

駅周辺より廉価な不動産価格

- 全体的に駅周辺の商業エリアより廉価な路線価・地価であり、新たな事業者が不動産を取得、賃貸しやすい価格
- エリアの空き店舗や空き家などは活用ニーズが高く、市場に出ればすぐに借り手がつく状況
- ただし、実際には空き店舗や空き家などの情報が流通しにくく、取引は限定的

令和 2 年
相続税路線価 (円/㎡)

■	201,000 - 250,000
■	151,000 - 200,000
■	101,000 - 150,000
■	51,000 - 100,000
■	- 50,000

令和 3 年
標準宅地価格 (円/㎡)

○	151,000 - 200,000
○	101,000 - 150,000
○	51,000 - 100,000
○	- 50,000

松本駅

あがたの森公園

暮らす人の想い【小中高生アンケート】 5小学校 / 4中学校 / 4高校 758名

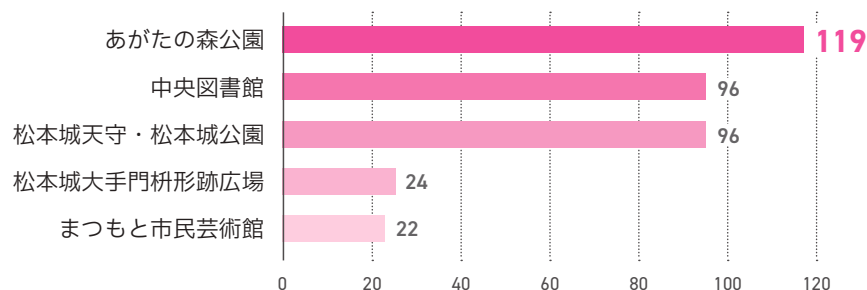
子どもたちが街で過ごせる 多様な居場所づくりへ

公共施設ではあがたの森公園 / 中央図書館など、民間施設ではイオンモールやパルコなどが現状の小中高生の居場所となっていることがわかりました。

一方で、「あると嬉しい場所」として公園・広場や学習スペースなどが多く求められていることから、現状ではそうした居場所が不足していると考えられます。

Q よく行く公共施設（月に1回以上）

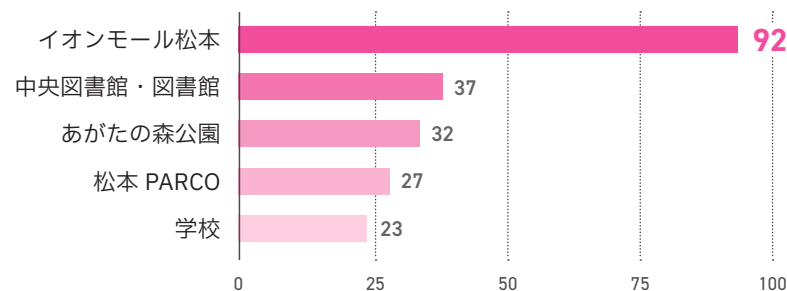
「松本城天守・松本城公園」「あがたの森公園」「中央図書館」が小中高生いずれも上位3位を占めました。



小学生の回答

Q お気に入りの場所

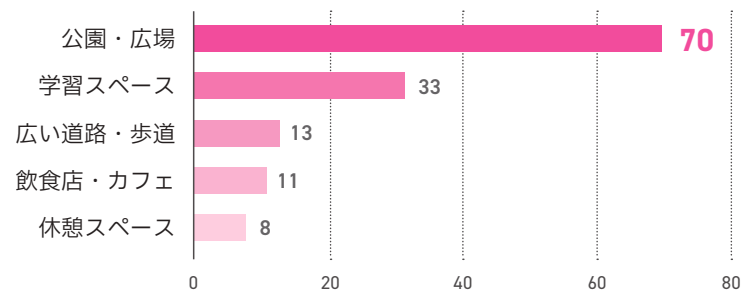
「イオンモール松本」が小中高生いずれも圧倒的多数で1位となり、「松本城天守・松本城公園」「あがたの森公園」「図書館」「ナワテ通り」「学校」が続きました。



中学生の回答

Q あると嬉しい場所

「公園・広場」が小中高生いずれも圧倒的1位。中高生では、「体育館・運動施設」「学習スペース」という回答が多くありました。



高校生の回答

暮らす人の想い【市民アンケート】 1000名

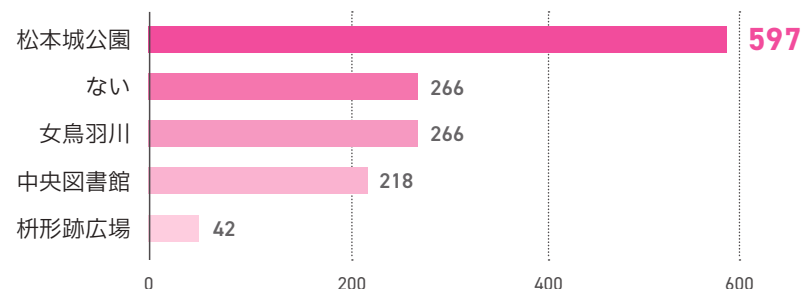
日常的に街に関われる きっかけづくりへ

日常的に憩い寛げる場所がない、イベントや市民活動に参加したことがないという回答が多く、街に日常的に関わるきっかけが少ないことがわかりました。

街との関わりしるを生む要素としては、文化・芸術に触れられる / 安心安全に歩ける / 自然を感じられるなどが重要であると考えられます。

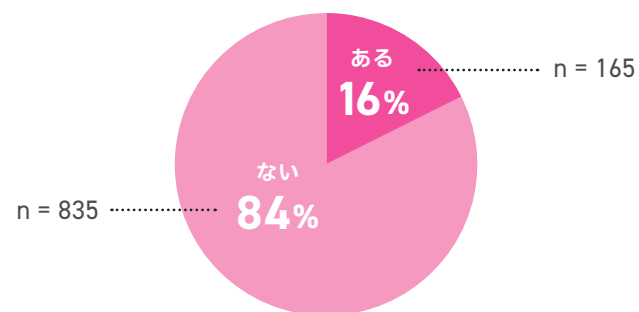
Q 日常的に憩い寛げる場所

「松本城公園」が圧倒的1位となり、「女鳥羽川」「中央図書館」が上位となりました。「ない」という回答も多く見られました。



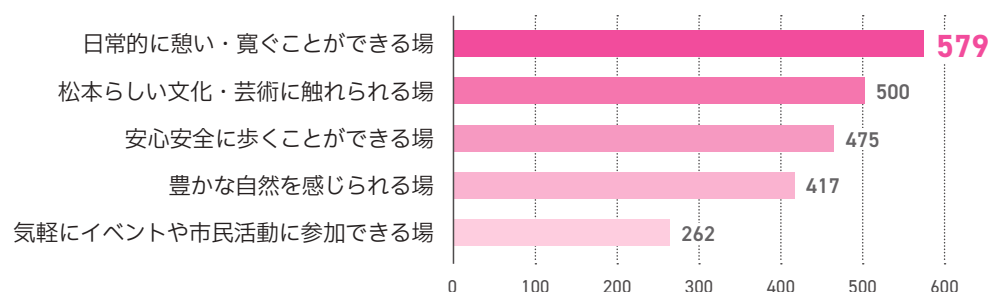
Q まちなかでのイベントや市民活動に参加したことがあるか

「ある」が16%となり、イベント等を通じた街と関わる機会はあまり多くないことがわかりました。



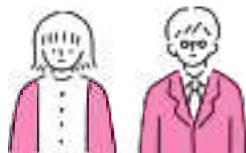
Q 松本のまちなかがこんな場所になったらいいなと思うこと

「日常的に憩い・寛げる」「文化芸術に触れられる」「安心安全に歩く」場が上位3位となり、それらが求められていることがわかりました。



暮らす人の想い【地域組織・事業者ヒアリング】

潜在力を活かした 豊かな暮らしへ



豊かな自然、徒歩でも移動しやすいスケール感、先端的・歴史的文化の共存、地域の主体的な自治や寛容性など、松本の街の特徴を把握することができました。

コロナ禍を契機として暮らしを見つめ直し、松本の街の特徴や潜在力を活かしながら、あらためて住まい働く環境をより良くしていきたいという強い想いを受け取りました。

- 三の丸エリアの在り方を考えることは、なりわいも含めた**松本のライフスタイルを考える**ことになる
- 発想豊かな若い世代に託していかないといけない
- 街の歴史や商いを引き継いでいくことも大切である
- 松本城は**地元の誇り**であり街の**象徴**である
- 作り手の**創作活動の拠点**があると良い
- **人を結び付ける役割を担う人**が必要である

想い

- 北アルプスや川、湧き水など**自然との距離感**が良い
- 文化やお店などの**多様さ**を受け入れる**寛容性**がある
- **街を愛し、主体的に自治を行う**町人**気質**がある
- **徒歩や自転車**で巡れる**スケール**で過ごしやすい
- 最先端の**インディー文化**(独立した文化)がある
- **街の人の顔が見える**という**下町的**文化が残っている

潜在力

- 観光客など**外部の人**に**過度に依存**している状態は**リスク**があるということをコロナで再認識した
- 何かを始める時、“**みんなで一緒に**”は**好まれない**
- **世代のつながり**が**希薄**なエリアになってしまった
- 天候や季節に関わらず過ごせる**公園**や**広場**がない
- 住みながら制作したい作り手は多いが**物件**がない
- 勉強や遊びが自由にできる**子どもの居場所**がない

現状と課題

ビジョンを構成するキーワード

「誰かに語りたくなる暮らし」を実現するためのヒント

エリアの現状と潜在力を様々な形で把握することで見えてきた目標実現のためのヒントを、キーワードとして整理しました。これらの切り口から取組みを考えていくことで、ビジョン実現への道筋が見えてきます。

誰かに語りたくなる暮らし

何気ない日々の暮らしを楽しむ	お気に入りの居場所がある	チャレンジしたくなる	街の物語を感じられる	会いたい人がいる
偶然の出会い	選択肢の多様さ	寛容さ	街への愛着	顔が見える繋がり
なりわい	雄大な自然の眺め・安らぎ	自主自立 共生の精神	重層する歴史	嗜好性
新たな学び・発見	魅力が滲み出す公共的空間	表現活動	街の象徴となる場所・情景	いざというときの助け合い
街を巡る楽しさ	心の拠りどころ	作り手の自由な創造性	継承される文化 インディー文化 (独立した文化)	多様な属性や世代



VISION

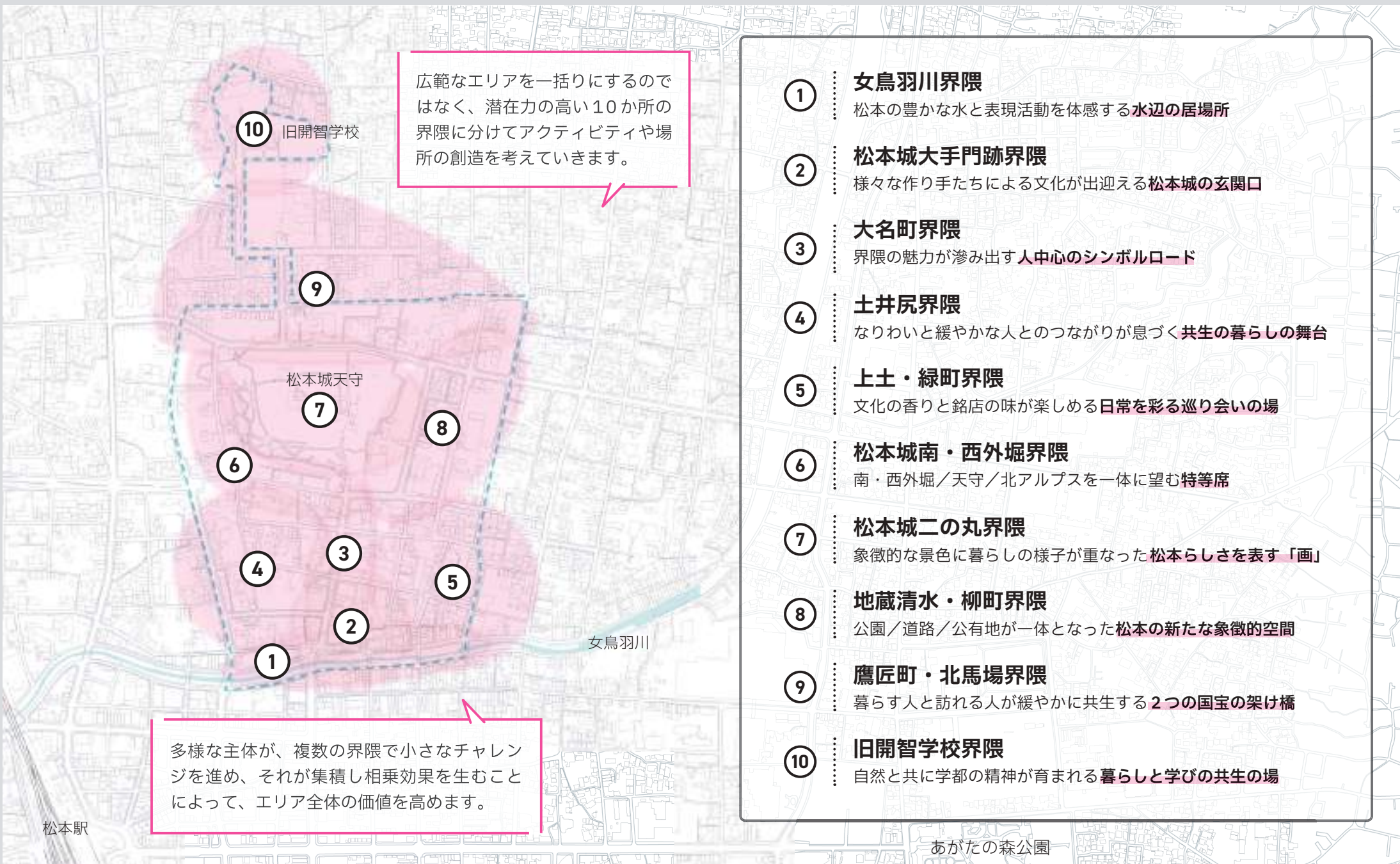
4

第4章

エリアの目指す姿



松本城三の丸エリア "The Power of 10" - 取組みを推進する10の界限 -



広範なエリアを一括りにするのではなく、潜在力の高い10か所の界限に分けてアクティビティや場所の創造を考えていきます。

⑩ 旧開智学校

⑨

松本城天守

⑦

⑧

⑥

④

③

⑤

①

②

女鳥羽川

多様な主体が、複数の界限で小さなチャレンジを進め、それが集積し相乗効果を生むことによって、エリア全体の価値を高めます。

松本駅

あがたの森公園

- ① 女鳥羽川界限
松本の豊かな水と表現活動を体感する水辺の居場所
- ② 松本城大手門跡界限
様々な作り手たちによる文化が出迎える松本城の玄関口
- ③ 大名町界限
界限の魅力が滲み出す人中心のシンボルロード
- ④ 土井尻界限
なりわいと緩やかな人とのつながりが息づく共生の暮らしの舞台
- ⑤ 上土・緑町界限
文化の香りと銘店の味が楽しめる日常を彩る巡り会いの場
- ⑥ 松本城南・西外堀界限
南・西外堀/天守/北アルプスを一体に望む特等席
- ⑦ 松本城二の丸界限
象徴的な景色に暮らしの様子が重なった松本らしさを表す「画」
- ⑧ 地藏清水・柳町界限
公園/道路/公有地が一体となった松本の新たな象徴的空間
- ⑨ 鷹匠町・北馬場界限
暮らす人と訪れる人が緩やかに共生する2つの国宝の架け橋
- ⑩ 旧開智学校界限
自然と共に学都の精神が育まれる暮らしと学びの共生の場

エリア全体の都市デザイン

街へ出る動機となる居場所・目的地を増やし、心地よく巡れる環境をつくる

豊かなシーンを実現するために、エリア全体を対象とした都市デザインを行います。

4つの都市デザインの方針に沿って、街へ出かけたい居場所や目的地を増やすとともに、歩行者を中心とした交通体系を構築することで、それらを心地よく巡れる環境づくりを行います。

都市デザイン - 1

これまで / これからの取組みを日常の風景へ

特色ある取組みを日常の暮らしのシーンとしていくために、持続的な取組みを支える仕組みをつくりまします。

持続的な
取組みを支える
仕組みづくり



● 仕組みのイメージ

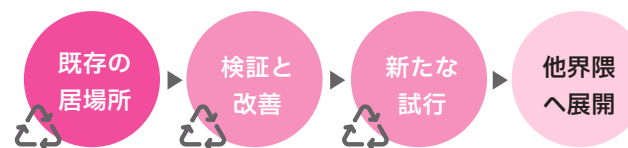
- ・活用ノウハウを共有できる環境の構築
- ・取組みを運営するチームの体制強化
- ・公共空間活用の規制緩和、手続きの簡便化など

都市デザイン - 2

選択多様性のある身近な居場所・目的地づくり

公共空間や空き地、空き家などの活用を促進し、日常の身近な居場所・目的地を増やします。

仕組みを展開した
居場所・
目的地づくり

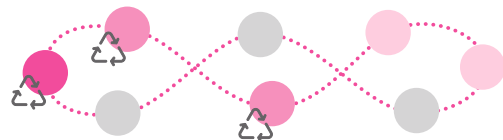


都市デザイン - 3

界隈の魅力が連なる歩行者ネットワーク形成

暮らす人 / 訪れる人が界隈の魅力を楽しみながら巡ることができる歩行者ネットワークを構築します。

居場所・目的地を巡れる
歩行者ネットワークづくり



都市デザイン - 4

誰もが心地よく移動できる交通体系づくり

心地よく巡れる環境をつくるための交通施策、新しい技術を用いたモビリティ導入、道路空間整備などを推進します。

歩行者優先の環境を
実現する
交通体系づくり

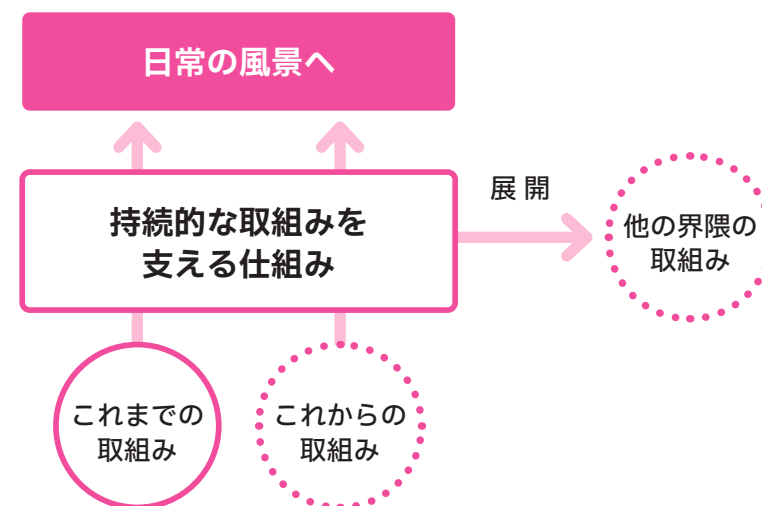


これまで / これからの取組みを日常の風景へ

エリアでは、これまでに多くの特色あるまちなかの空間を活用した取組みの蓄積があり、これからの新たな取組みも検討されています。それらが日常の暮らしのシーンとなるためには、持続的な取組みを支える仕組み（ノウハウの共有、適切な体制づくり、規制緩和、各種手続の簡便化など）を共に作っていく必要があります。

そういった仕組みをつくることで、他の界隈で同様の取組みを行う際に、その取組みを後押しできます。

また、それらの様々な取組みを、街の歴史や文化とともに、誰かに伝える / 語る機会（まちあるきガイドやサインなど）をつくります。



水辺のマルシェ（女鳥羽川）



THE SANNOMARU TERRACE（大名町通り）



みどり食堂（辰巳の御庭）



まつもと古市（松本城大手門櫓形跡広場）



工芸の五月（辰巳の御庭など）

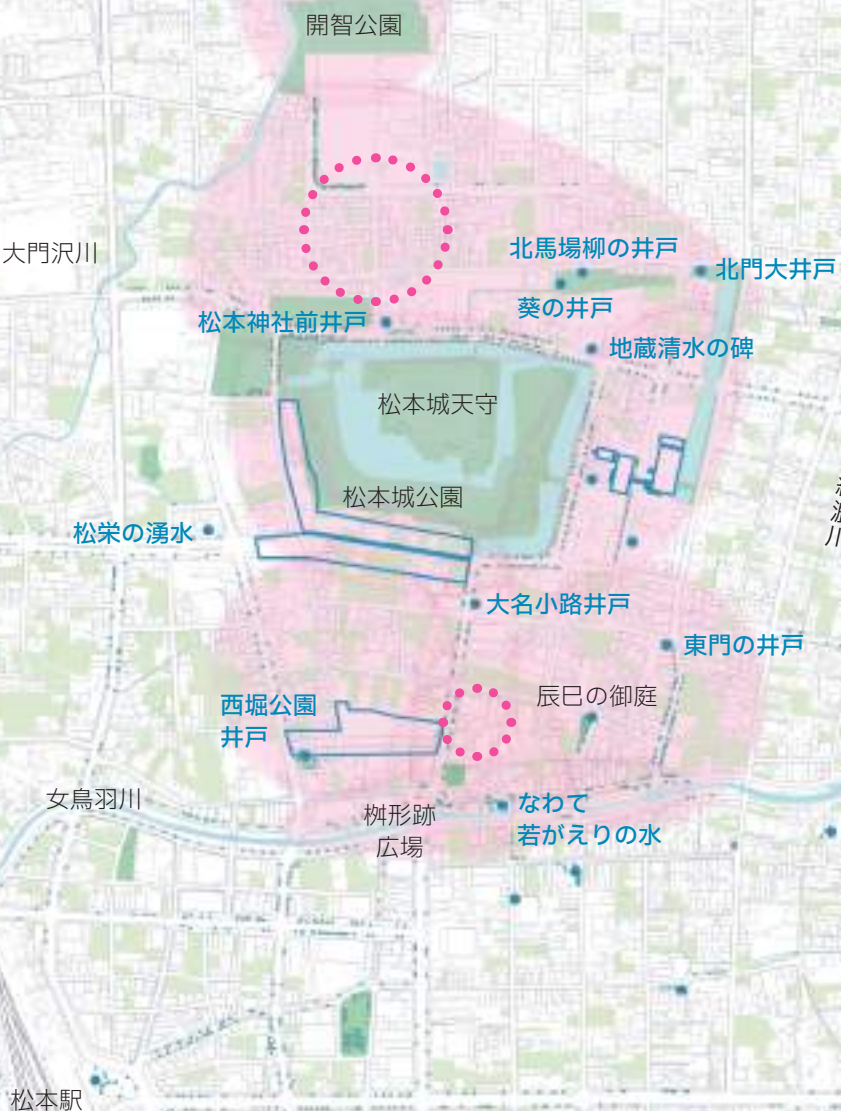


パレット広場（都市計画道路事業予定地）

選択多様性のある身近な居場所・目的地づくり

- 公園や公共広場、川などの公共空間と、点在する民間の空き地や空き家の活用を促進し、**日常の身近な居場所・目的地を創出**します。
- 井戸や川などの水資源、街路樹や芝生などの緑資源の豊かさを保つために、**維持管理の仕組みを構築**します。
- また、中心市街地の環境をより良くするための**グリーンインフラ**として、**緑や水、空き地などの資源を活用**します。

- 都市公園 / 公共広場
- 空き地 (民有地)
- 街路樹
- 井戸
- 民間建物活用の可能性がある地域
- 主要公共事業



界隈の魅力が連なる歩行者ネットワーク形成

界隈の魅力が滲み出す
面的な歩行者ネット
ワークを構築する

- 暮らす人 / 訪れる人が 10 の界隈の魅力を楽しみながら巡ることができるよう、歩行者ネットワークの構築を図ります。
- 松本城や旧街道、路地といった歴史的都市構造を踏まえ、街並みや山並み眺望の風景の移り変わりを楽しめる環境をつくります。
- 道路空間活用の推進や、沿道敷地と連携した道路への沿道機能の滲み出しを促進することで歩く人にとっての魅力を高めます。

THE
SANNOMARU
TERRACE

新伊勢町
ナイトテラス

松本駅

旧開智学校

松本城天守

松本城
大手門跡

ナワテ通り

みどり食堂

- 歩行者ネットワーク
- 道路空間活用の取組み
(街場のえんがわ作戦など)
- 歩いてみたい城下町整備事業等で美装化された道路
(段差で分離された歩道のみ的美装化は除く)
- 段差で分離されている歩道
- 段差はないが
物理的に分離されている歩道
- 主要公共事業

あがたの森公園

誰もが心地よく移動できる交通体系づくり

- ■ ■ ■ ■ 主要な歩行者ネットワーク
 - ■ ■ ■ ■ バス路線
 - ■ ■ ■ ■ 主要駐車場
 - ■ ■ ■ ■ 主要公共事業
 - ■ ■ ■ ■ 整備中道路
- (以下、総合交通戦略より)
- ⇄ 歩行者軸
 - ⇄ 公共交通軸
 - ⇄ 幹線道路

旧開智学校

松本城天守

国道143号

幹線道路を通じた
広域から都心部への
自動車のアクセス

松本駅

あがたの森公園

- 国道143号を含む**幹線道路の機能強化**などにより公共交通を始めとした自動車交通の円滑化を進めます。
- 幹線道路沿いや都心部外縁部への**駐車場の適正な配置**、**各境界に応じた進入抑制対策**、**速度抑制対策**など様々な取組みによって通過交通の流入を抑制します。
- 将来的に道路整備を行う際には、**ユニバーサルデザイン**に配慮したしつらえとし、歩行者中心で**新しい技術を用いたモビリティ**と共存できる道路空間再編を前提とします。

新しい技術を用いたモビリティイメージ



将来の道路空間イメージ



出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる」



VISION

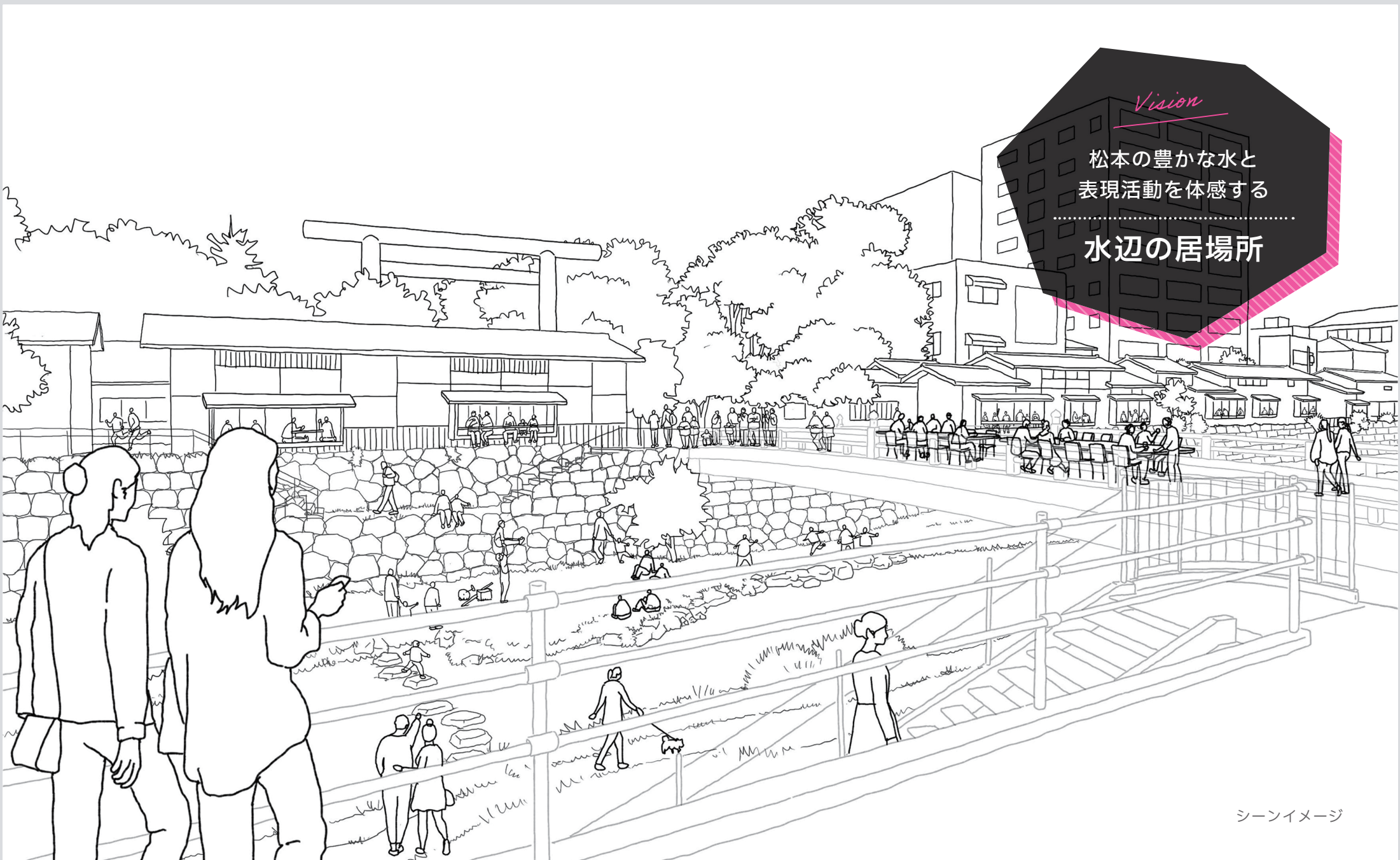
5

第5章

界限ごとの目指す姿



10の界限 01 女鳥羽川界限



Vision

松本の豊かな水と
表現活動を体感する

.....

水辺の居場所

シーンイメージ

01 女鳥羽川界限

特性 / 潜在力

- ・水と緑を身近に感じられる親水空間
- ・川沿いに多様な店舗が集積
- ・ナワテ通りを中心としたまちづくりや維持管理の取組みの蓄積
- ・ナワテ通り、河川敷、橋を活用した定期的なイベントの開催

地域組織など

- ・ナワテ通り商業協同組合
- ・縄手商業会
- ・Metoba リバーサイドプロジェクト
- ・上土町 / 緑町 / 中町 / 六九町 / 大名町 (町会)

取組方針

- 河川敷や橋、建物などで居心地良く滞在し、多様な表現活動を行える・体感できる環境づくりを促進する。
- ナワテ通りや河川敷、橋などを自由に歩き回ることでできる仕掛け（魅力づくりと空間整備）をつくる。
- 水と緑の風景を守り、川辺を活かした活動を継続するため、草刈りなどの維持管理を持続的に行う体制を構築する。



シーンイメージ

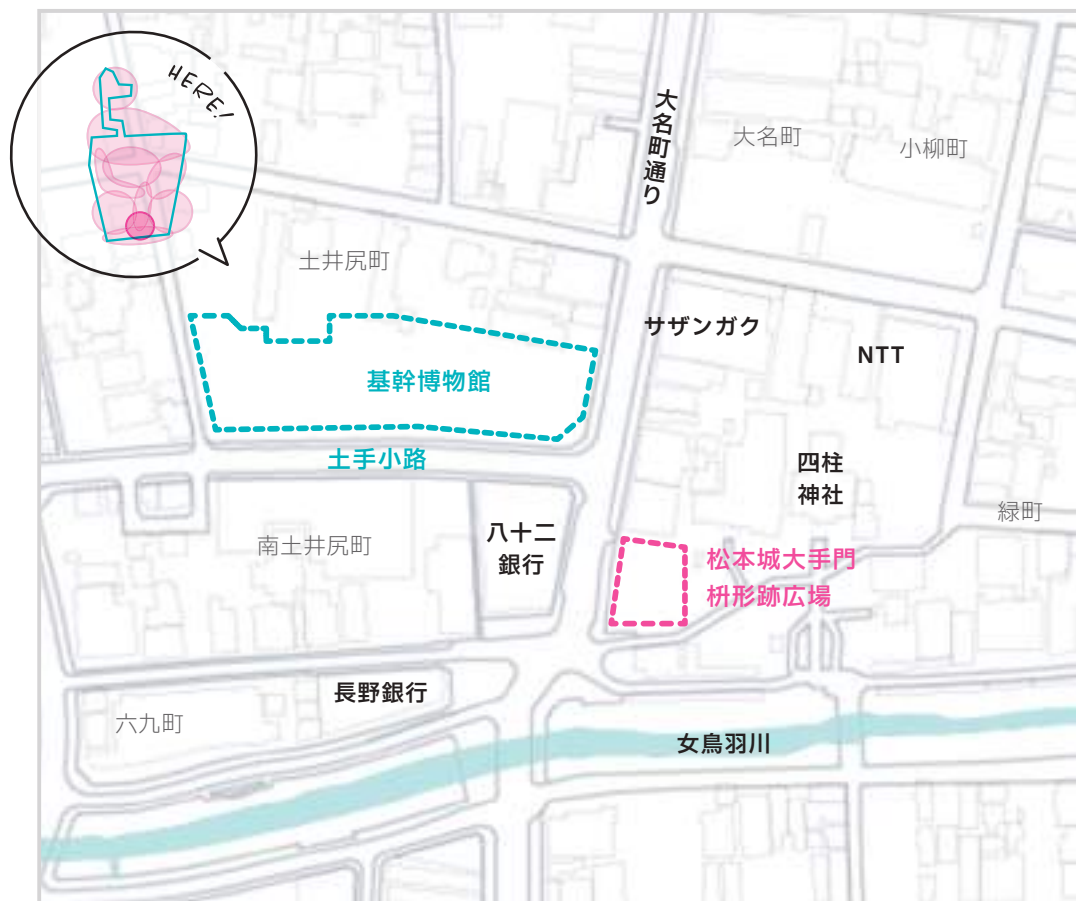
Vision

様々な作り手たちが
育む文化が出迎える

松本城の玄関口



02 松本城大手門跡界限



特性 / 潜在力

- ・ 枅形跡広場、女鳥羽川、基幹博物館などの公共施設 / 公共空間が近接して立地
- ・ 商業 / 業務機能の集積
- ・ 松本城大手門跡としての歴史
- ・ ビジネス拠点施設 (サザンガク) の立地
- ・ 民間ビル活用の機運
- ・ 枅形跡広場でのまつもと古市などのイベント開催

地域組織など

- ・ 緑町 / 小柳町 / 大名町 / 南土井尻町 / 土井尻町 / 六九町 (町会)
- ・ お城周辺地区まちづくり推進協議会第2ブロック
- ・ お城下町まちづくり推進協議会
- ・ 松本城・三の丸倶楽部

取組方針

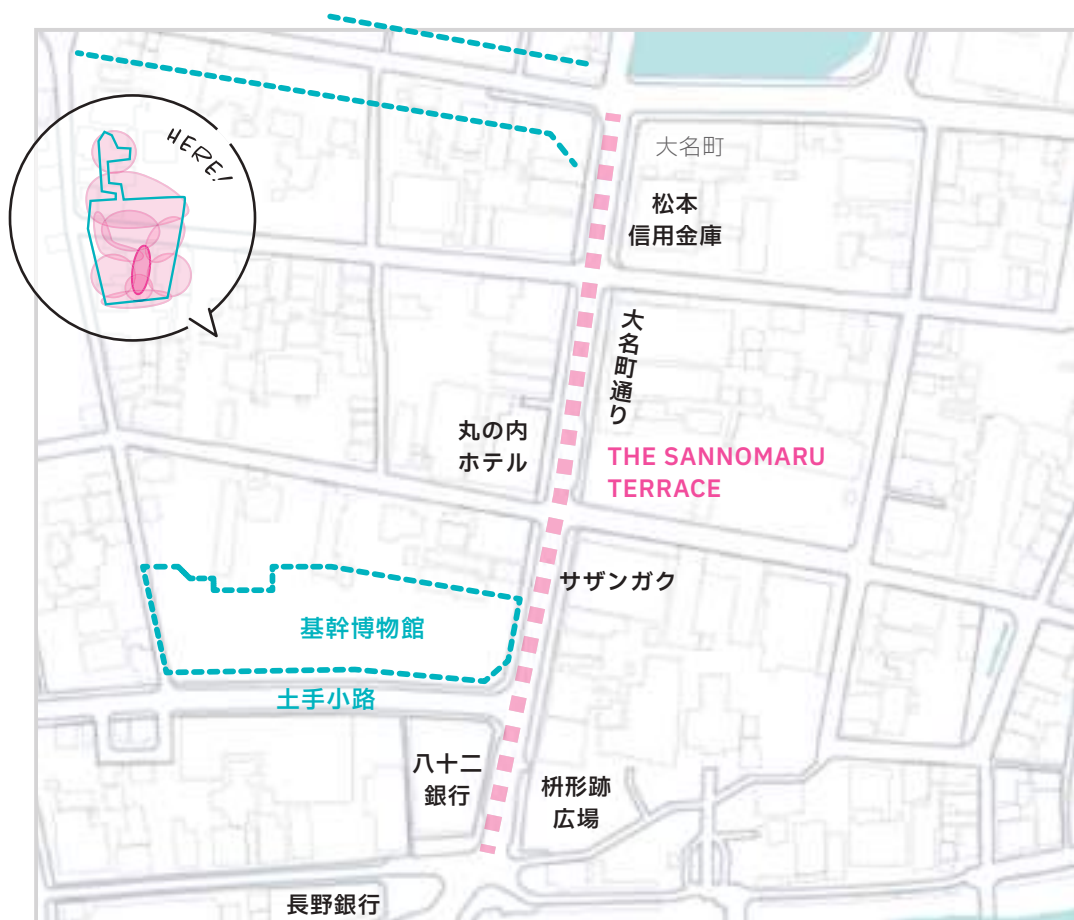
- クラフト文化を中心とした、多様な文化の表現者 (作り手) が集う民間の拠点機能を創出する。
- 公共空間などにおける様々な文化表現の活動 (マーケットや展示、ワークショップなど) を促進する。
- エリアの玄関口として訪れる人を迎え入れる雰囲気 (空間的・コンテンツ的な取組みなど) を醸成する。



10の界隈 03 大名町界隈



Vision
界隈の魅力がしみ出す
.....
人中心の
シンボルロード



特性 / 潜在力

- ・大名町通り沿道には銀行などの業務機能や飲食店舗などが立地
- ・地元発意のまちづくりや計画の積重ね
- ・松本城・三の丸倶楽部が中心となり「THE SANNOMARU TERRACE」などの取組みを実施
- ・大名町通りは観光客が松本城へ向かう主要な動線

地域組織など

- ・大名町（町会）
- ・松本城・三の丸倶楽部
- ・お城周辺地区まちづくり推進協議会第2ブロック

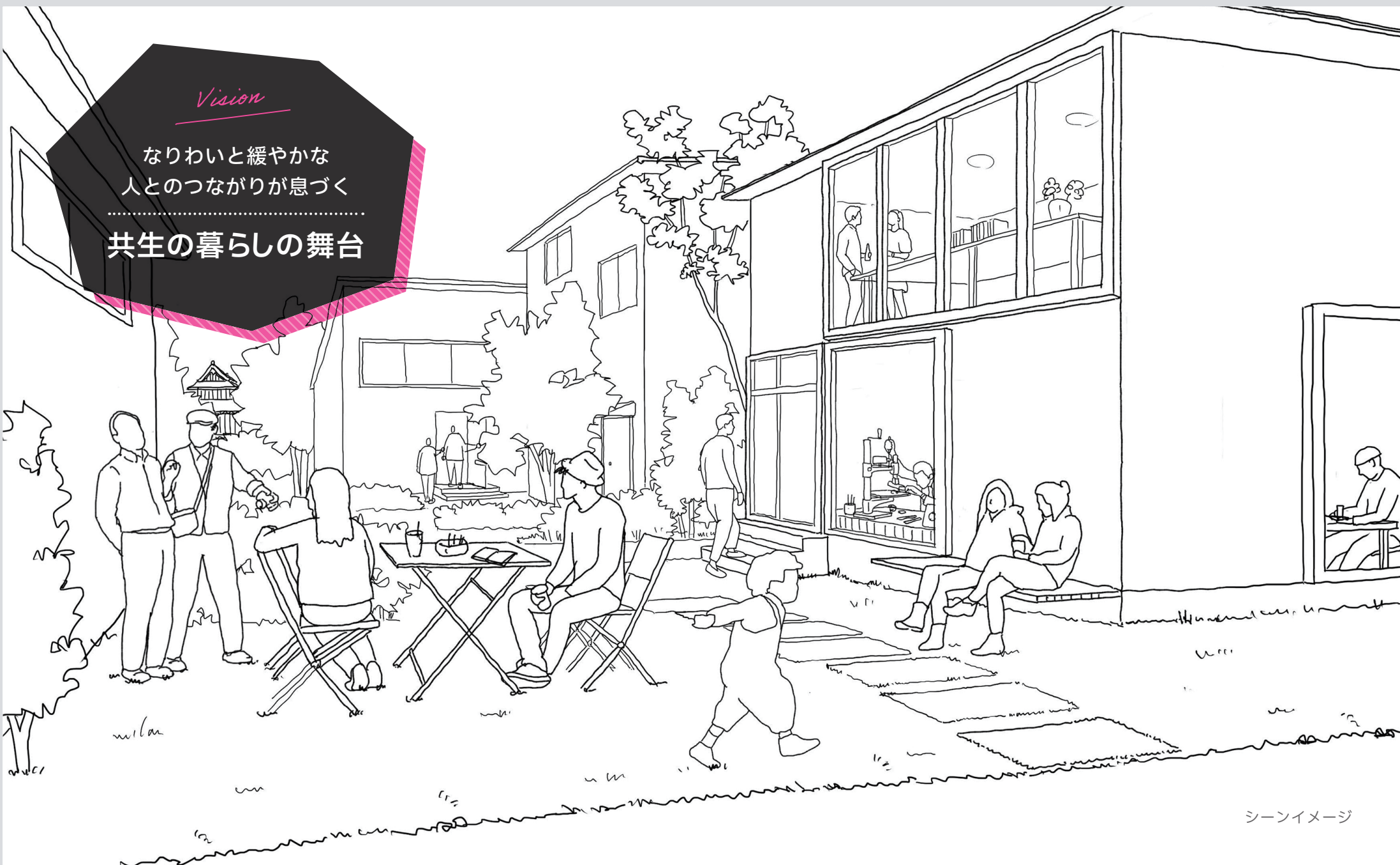
取組方針

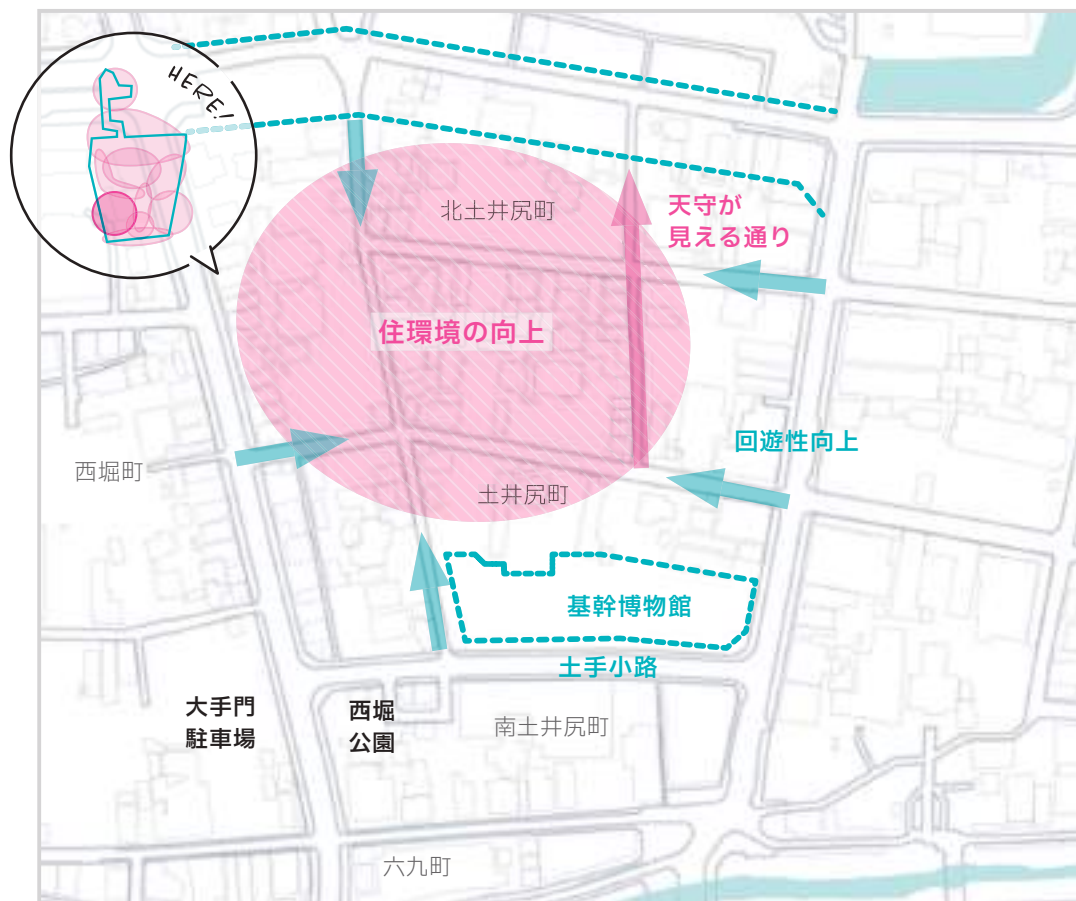
- 沿道機能（建物の低層部の用途）の滲み出しが通りを歩く人にとっての魅力となる環境をつくる。
- 公民連携により、地元主体の持続可能な街路沿道の活用と運営を推進する仕組みを構築する。
- 沿道建物低層部へのサービス用途誘導や道路のフルフラット化、道路と沿道建物の一体的なデザインなどの検討を行い、中長期的に人を中心とした道路空間への再編を進める。

Vision

なりわいと緩やかな
人とのつながりが息づく

共生の暮らしの舞台





特性 / 潜在力

- ・ 居住機能の一定の集積
- ・ 小規模店舗の立地
- ・ 大名町通りと隣接した松本城天守が見える通り
- ・ 駐車場を含む低未利用な空地や空き家が点在

地域組織など

- ・ 北土井尻町 / 土井尻町 / 南土井尻町 / 西堀町 / 六九町 (町会)
- ・ お城周辺地区まちづくり推進協議会第2ブロック

取組方針

- 空き地を活用した憩いの空間づくりなどにより**落ち着いた暮らしの環境**を向上する。
- 生活に彩りを与える機能を併せ持った**新たな住まいの整備**などを、界限で連携して進める。
- 移住促進の取組みとも連携し、**なりわいと暮らし、地元の方と移住者の方とのつながりづくり**を行う。
- 誰もが安心して歩ける環境づくりや災害時も想定した空き地活用などによる**地域防災機能の向上**を図る。
- 松本城を望む道や点在する小規模店舗を巡り、**訪れる人も楽しむことのできる機会**を生む。



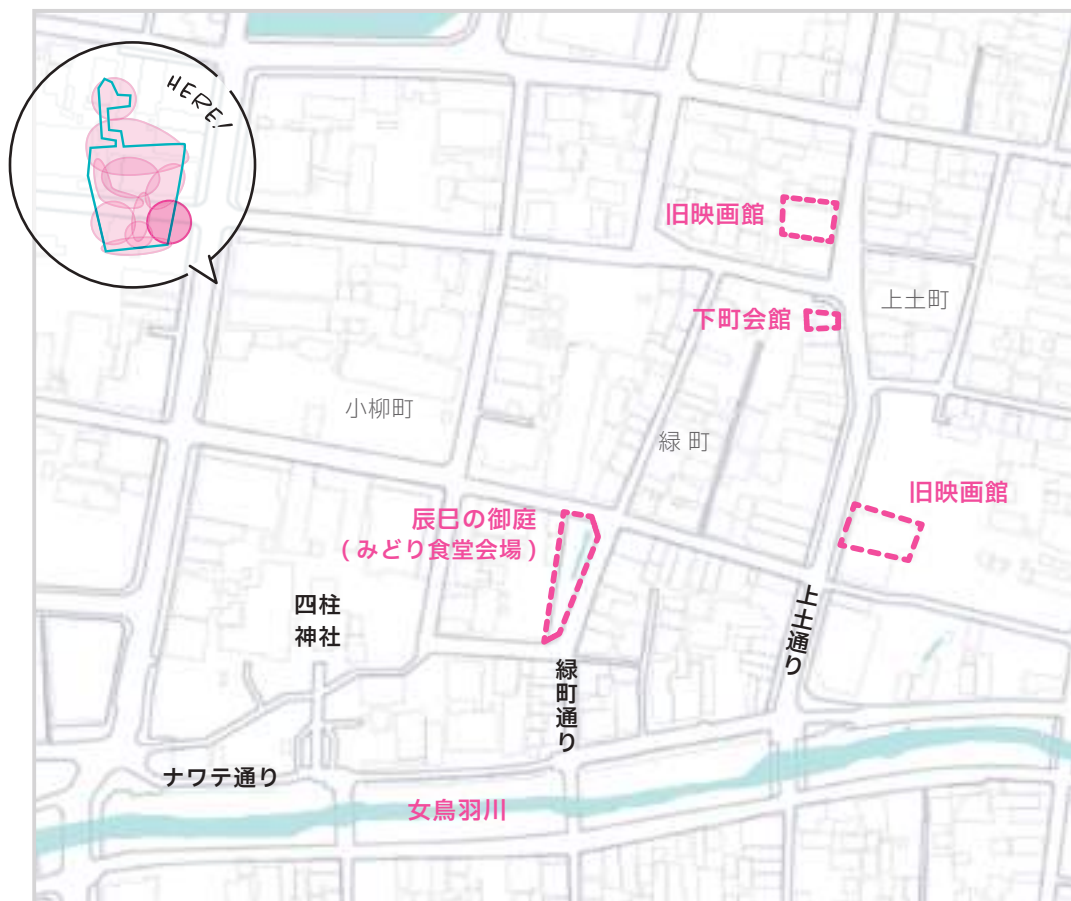
Vision

文化の香りと
銘店の味が楽しめる

日常を彩る
巡り会いの場



シーンイメージ



特性 / 潜在力

- ・辰巳の御庭 / 旧映画館 / 女鳥羽川などを始めとする屋内外の拠点
- ・銘店の集積
- ・歴史的建築物 / 景観
- ・大正ロマンのまちづくりや旧映画館再生の取組み
- ・みどり食堂を辰巳の御庭で実施

地域組織など

- ・上土町 / 緑町 / 小柳町 (町会)
- ・お城下町まちづくり推進協議会
- ・みどり食堂参加店舗

取組方針

- 辰巳の御庭や旧映画館などを核にして、**界限の文化・歴史の香りをより感じられる環境**をつくる。
- 若者を中心に、音楽や映画、演劇を始め現代アートや小商いなど**自由な表現活動**ができる受け皿をつくる。
- 集積する銘店の魅力がしみ出し、**地元の人も訪れる人も日常的に集い楽しむことのできる場**をつくる。
- 界限を心地よく歩き回ることのできる**歩行環境創出**に向けた取組みを行う。

10の界限 06 松本城南・西外堀界限

Vision

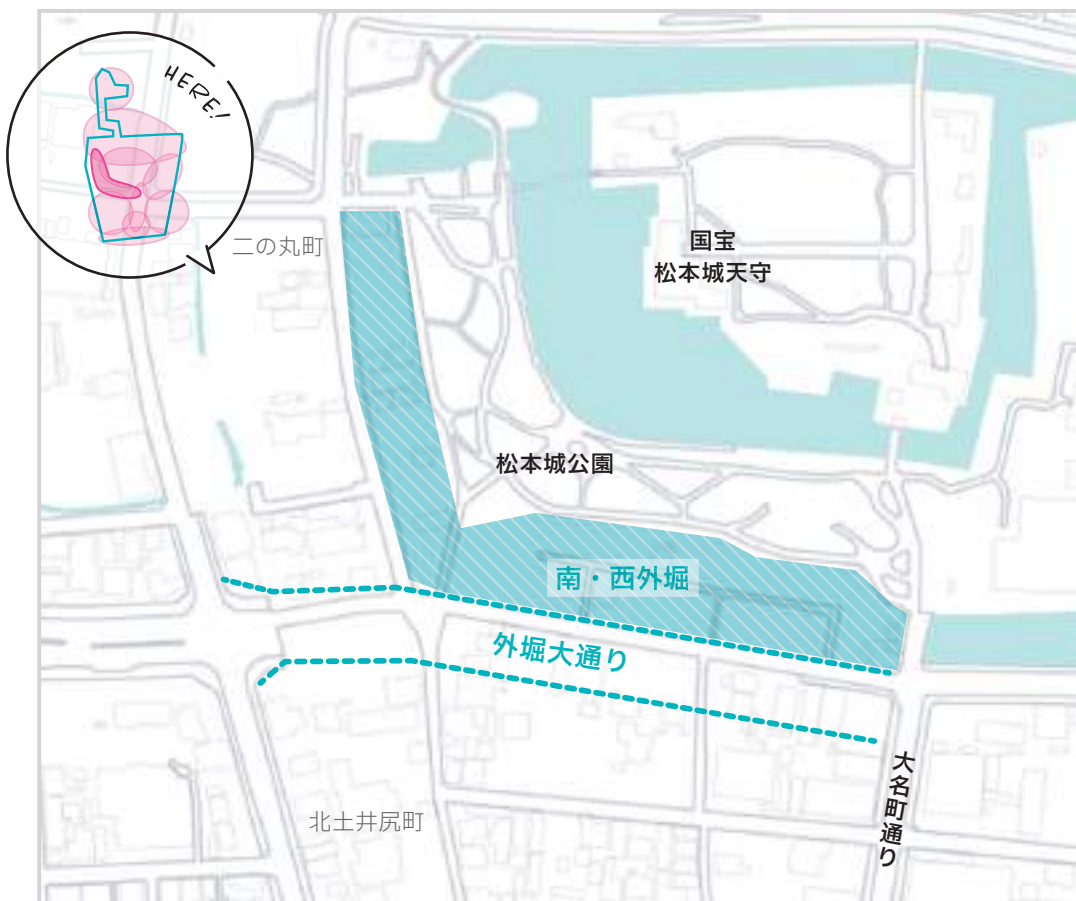
南・西外堀 / 天守 /
北アルプスを

一体に望む特等席



シーンイメージ

06 松本城南・西外堀界限



特性 / 潜在力

- ・松本城南・西外堀 / 外堀大通り（内環状北線） / 松本城公園が一体となった空間
- ・南西外堀部分にあった住宅などは、用地買収により近隣やエリア外に移転
- ・外堀大通り（南側）は、用地買収に伴い、主に住宅用途としての建替えが進行
- ・外堀大通りの拡幅により歩道空間が大きく広がる

地域組織など

- ・大名町 / 北土井尻町 / 二の丸町 / 西堀町 / 丸の内（町会）
- ・お城周辺地区まちづくり推進協議会第2ブロック

取組方針

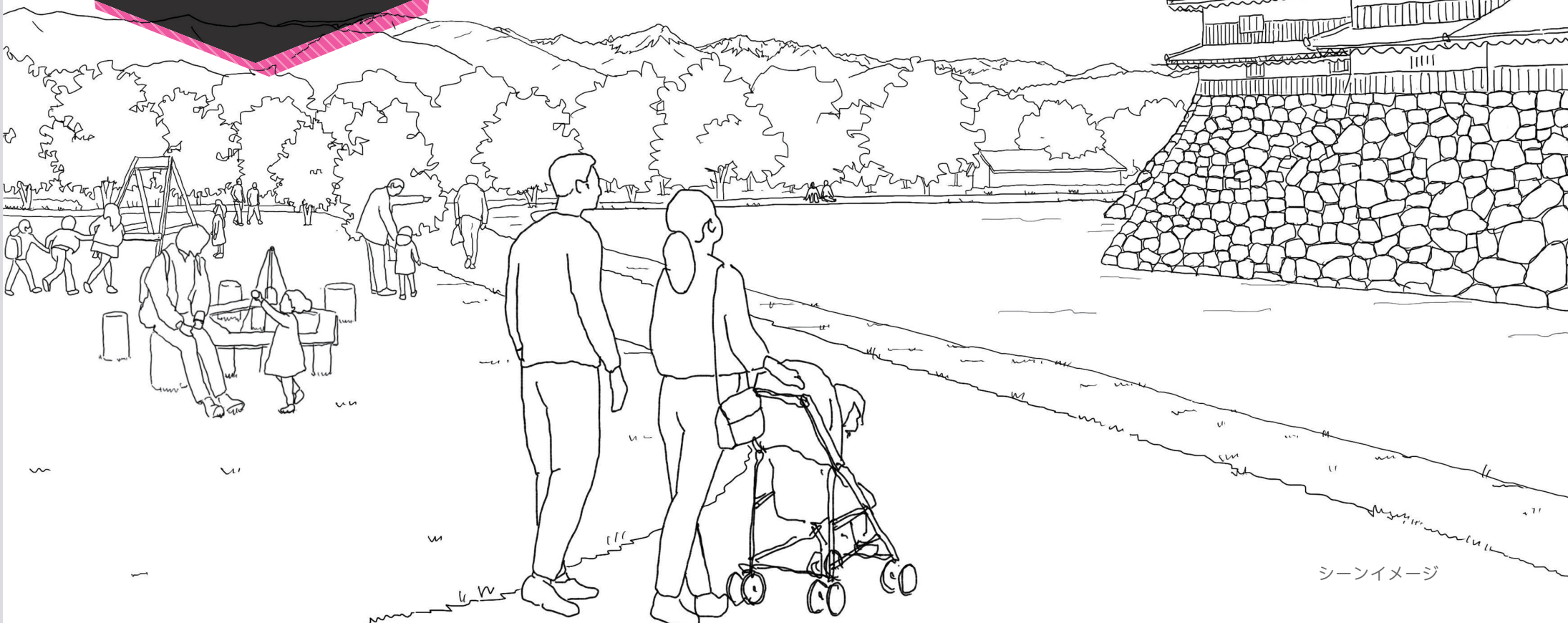
- 水を湛えた南・西外堀と松本城天守、北アルプスを一体的に臨む眺望環境をつくる。
- 外堀大通りを活用し、日常的に憩うことのできる心地よい滞在空間を創出する。
- 外堀大通りの暫定整備の段階から、暮らしに彩りを与えるマーケットなどの活用を試行する。



Vision

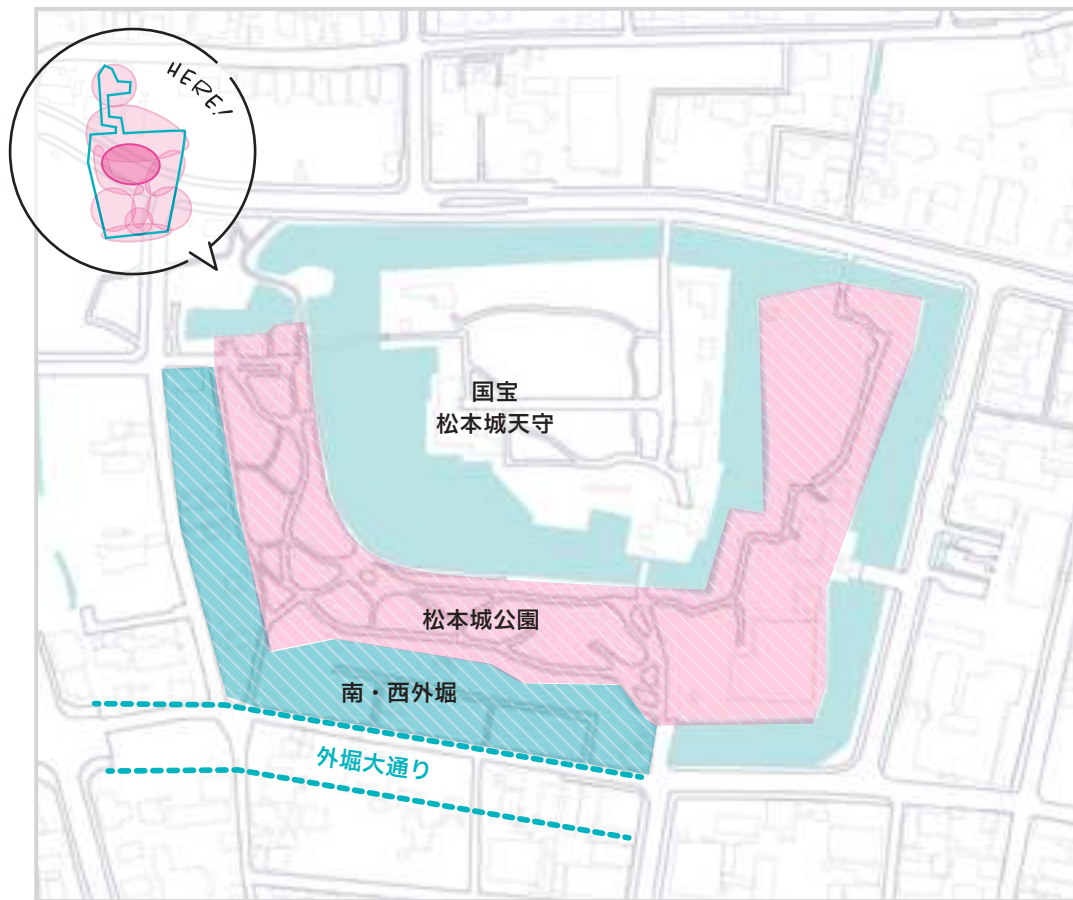
象徴的な景色に
暮らしの様子が重なった

松本らしさを
表す「画」



シーンイメージ

07 松本城二の丸界限



特性 / 潜在力

- ・ 国宝松本城天守のシンボル性 / 文化的価値
- ・ 北アルプスの山並み景観
- ・ 松本城公園はエリア内の大規模オープンスペース
- ・ 大規模イベント会場として定期的な活用
- ・ 世界遺産登録に向けた取組みが進行中

地域組織など

- ・ 複数のボランティアガイドグループ

取組方針

- 都市公園としての憩いや活用の機能と史跡としての保全のバランスを踏まえた在り方を検討することで、北アルプスと松本城天守という背景に地元の人々の暮らしのシーンが加わった情景を創出する。
- 外堀復元に伴う松本城公園の再整備において、園内の座具のデザインや配置なども見直し、訪れた人がよりくつろぎやすい滞留空間へと改善する。
- 地元の方や作り手などの自由な表現活動の受け皿として公園を活用しやすい仕組みをつくる。

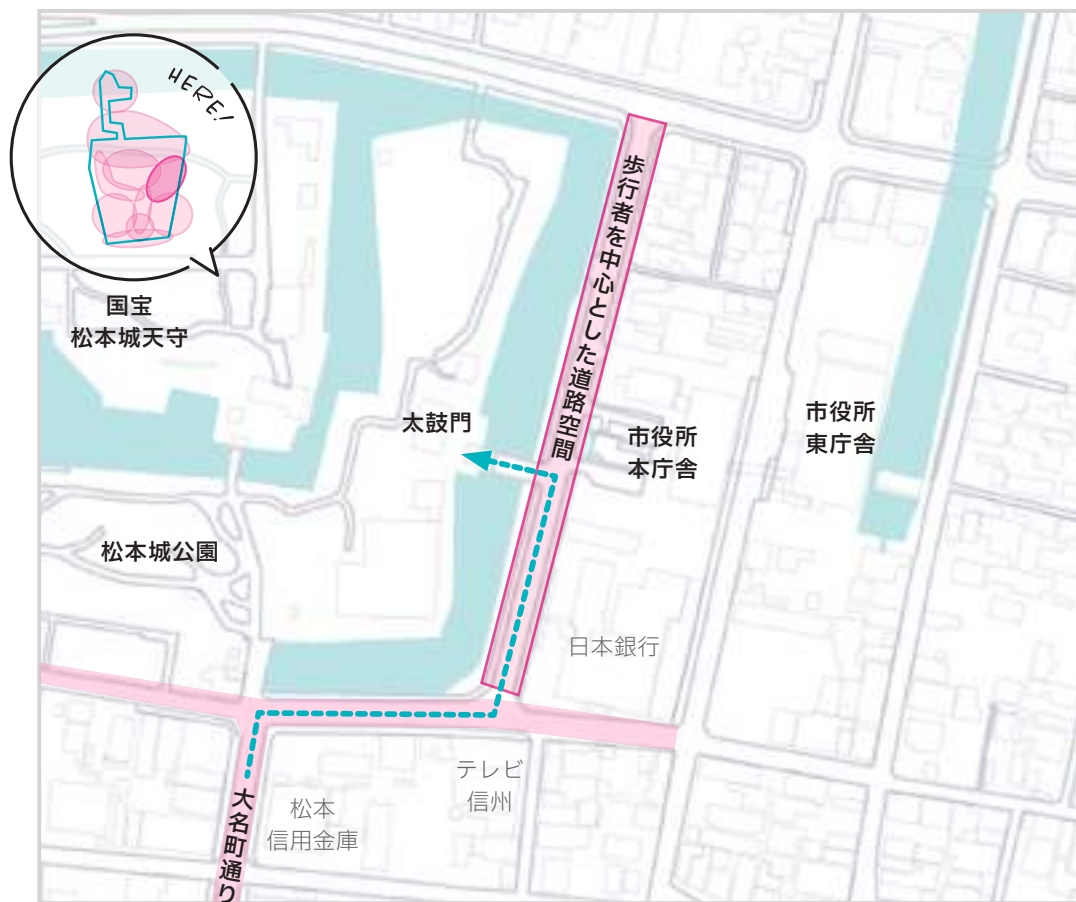
Vision

公園 / 道路 / 公有地が
一体となった

松本の新たな
象徴的空間

今後の方向性は
エリアに想いを寄せる皆さんと共に
検討していきます。

ぜひ皆さんの想いを描いてください。



特性 / 潜在力

- ・住宅 / 公共施設 / 業務 / 店舗が混在
- ・市庁舎建替事業が進行中
- ・エリア内の大規模な公有地（本庁舎敷地）
- ・歴史的登城ルート（大名町通り - 太鼓門 - 松本城天守）

地域組織など

- ・大柳町 / 丸の内 / 大名町 / 片端町（町会）
- ・お城周辺地区まちづくり推進協議会第1ブロック

取組方針

- 新庁舎建設に関わる基本的な方向性を定めた上で、今後検討していく。



Vision

暮らす人と訪れる人が
緩やかに共生する

2つの国宝の
架け橋



特性 / 潜在力

- ・ 2つの国宝の間に位置
- ・ 居住機能の一定の集積
- ・ 高齢世帯割合が高い
- ・ 連鎖的空き店舗活用の動き

地域組織など

- ・ 鷹匠町 / 北馬場 / 丸の内 (町会)
- ・ お城周辺地区まちづくり推進協議会第1ブロック

取組方針

- 空き家 / 空き地を活用し、**日常の暮らしやすさを高める機能を導入する。**
- それにより居場所の選択肢と暮らしを感じられる接点を増やし、**暮らす人と訪れる人が緩やかに共生できる環境をつくる。**
- ユニバーサルデザインの考え方にに基づき道路などの公共空間を改善することで、**誰もが安心して巡れる環境を生み出す。**

シーンイメージ

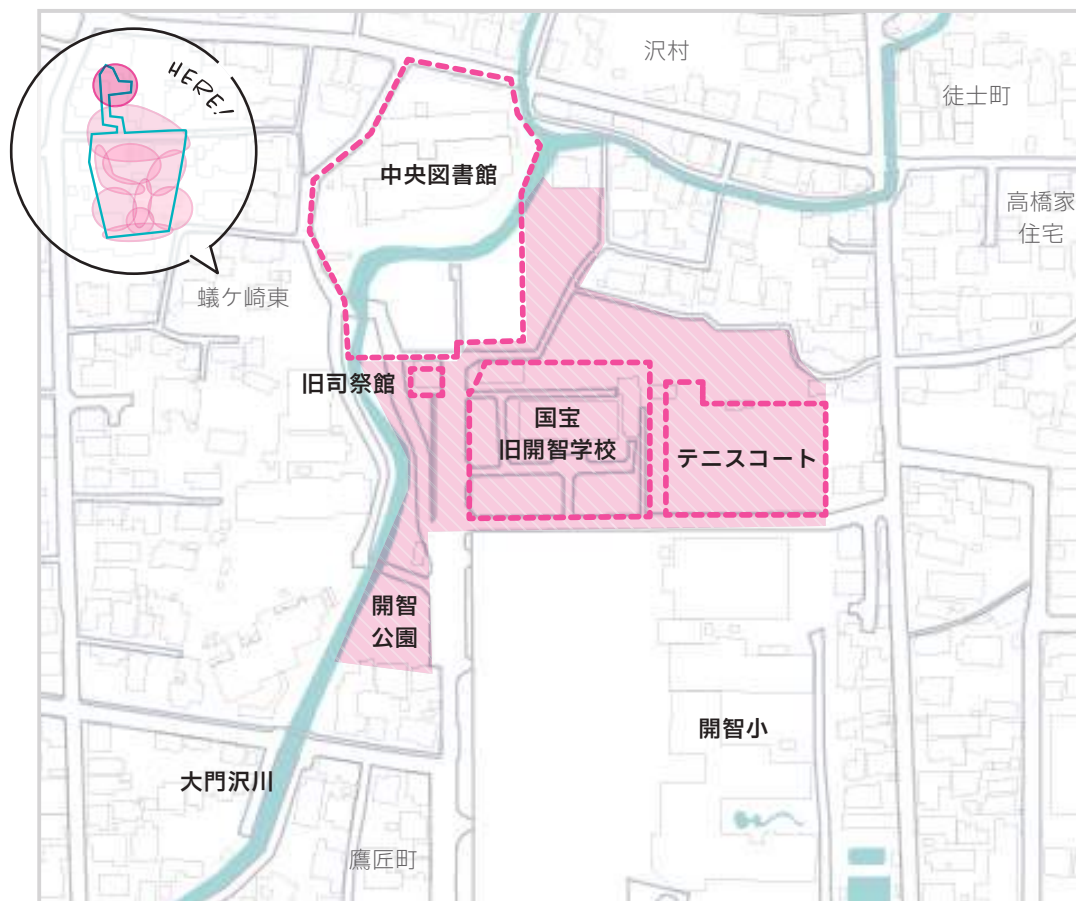
Vision

自然と共に
学都の精神が育まれる

暮らしと学びの
共生の場



10 旧開智学校界限



特性 / 潜在力

- ・ 学びの拠点としての、国宝旧開智学校校舎と中央図書館
- ・ 周辺に居住機能が集積
- ・ 旧司祭館 / テニスコート等の活用可能性
- ・ ホタルがいる大門沢川

地域組織など

- ・ 鷹匠町 / 北馬場 / 丸の内 / 蟻ヶ崎東 / 沢村 (町会)
- ・ お城周辺地区まちづくり推進協議会第1ブロック

取組方針

- 近代教育の黎明を象徴する国宝旧開智学校校舎と日常的な学びの場である図書館の存在を活かして**学都の精神が育まれる環境や機会**をつくる。
- ホタルのいる大門沢川に代表される豊かな**自然環境を体感できる日常の憩いの場**を創出する。
- 子どもたちが**安心して通学し遊ぶことができるよう**、自動車の通過交通を抑制する。
- 界限の施設管理者は界限の将来像を共有した上で各施設の在り方を検討する。



VISION

6

第6章

ビジョンの実現に向けて

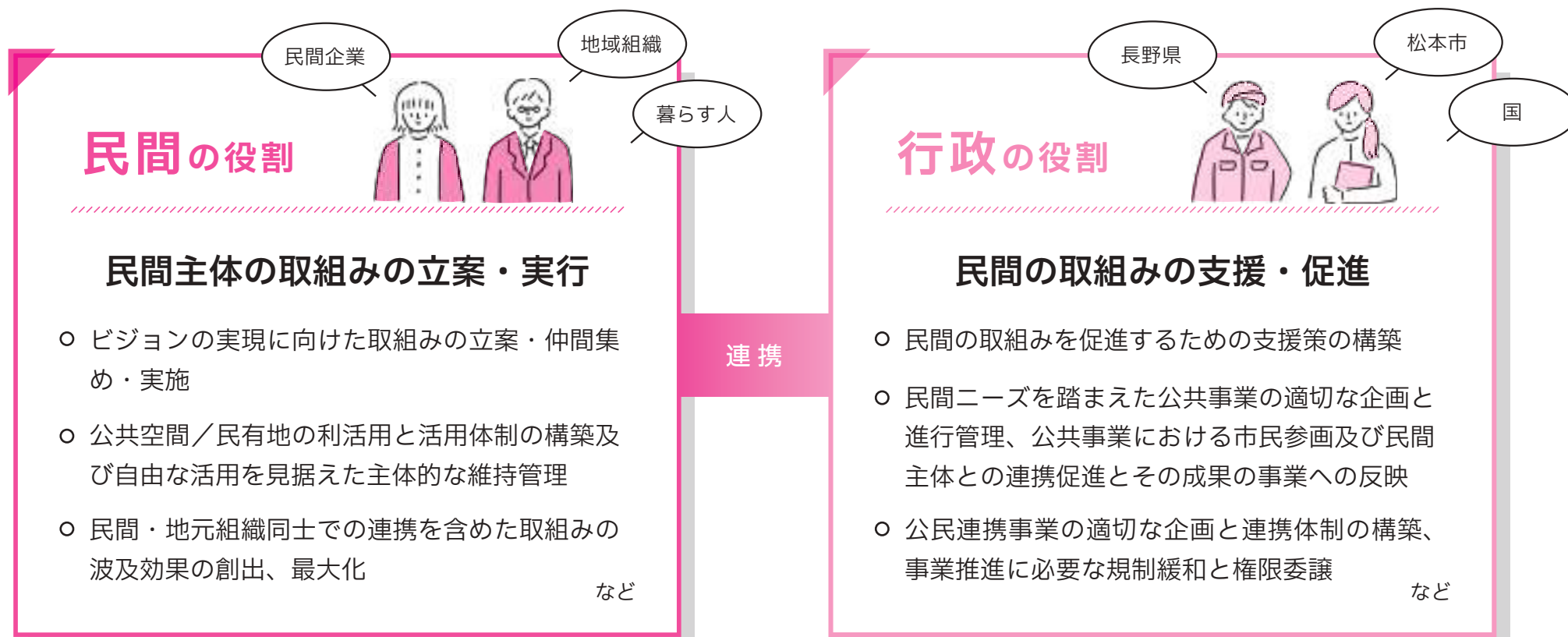


公民連携の役割分担

民間と行政の適切な役割分担によってビジョンを現実へ

ビジョン実現のためには民間と行政がそれぞれ志と責任を持ち適切な役割分担による対等な連携が必要です。松本城三の丸エリアにおいても、両者が連携しながら取組みを推進していきます。

また、事業に関する企画、建物などのハード整備や施設運営などのソフト事業を行う際には、専門的な知見や幅広いアイデアを募るなど、魅力ある事業や環境をつくるための適切なプロセスを構築します。



公民連携の役割分担

民間の動き・体制

三の丸エリアプラットフォーム（仮称）

ビジョンを実現していくための組織。界限ごとに活動母体となる実行体制を組成し、界限ごとに具体的なアクションを進める。

ぜひ
参画して
ください！



連携

事務局

松本市
お城まちなみ
創造本部

行政の動き・体制

三の丸エリア市内プロジェクトチーム

ビジョンの実現に向け、関連部署をテーマごとにチーム化し、部局横断の体制で民間の取組みをバックアップする。

テーマに
応じた
チーム体制

1. 交通

交通ネットワーク課
公共交通課
自転車推進課
都市計画課

インフラ

建設課
維持課
商工課

利活用

2. 文化観光

商工課
観光プロモーション課
文化振興課
文化財課
松本城管理課
博物館
住宅課
移住推進課

3. 市役所

総合戦略室
庁内関係各課

4. 旧開智学校周辺

中央図書館
博物館
公園緑地課
スポーツ推進課

5. 都市機能誘導 アクションプラン

お城まちなみ創造本部

※テーマごとに記載された各課の他に、必要に応じて関係部局を追加します。

段階的に進めるプロセス・デザイン

R4年度以降、ビジョンを基にした具体的な取組みを 各界隈にて進めていきましょう！

R4年度以降は、このビジョンの実現に向けてプレイスメイキングの考え方を参考にしながら段階的に取り組んでいきます。まずは皆さんが思い描く個別のシーンを仲間と共有することから始め、小さなチャレンジとその検証を積み重ねていきましょう。

R3 / 2021

R4 / 2022

R5 / 2023

R6 / 2024

R7 / 2025 ~

目指す姿と
進め方を
考える

- ビジョン策定

STEP
1

シーンを想像する

STEP
2

シーンに共感する仲間を見つける・増やす

- 界隈毎に個別のプランを検討・作成
- (仮称) 三の丸エリアプラットフォーム設立

STEP
3

小さくチャレンジする
効果を検証し改善する

- 界隈毎にパイロット・プロジェクトとして具体的な社会実験の実施・効果検証・改善を繰り返し持続可能な仕組み作りを目指す
- エリアプラットフォームにて情報共有・連携

日常の
シーンへ

- 定常的な取組みへ

PROCESS

パイロット・プロジェクトの結果を
踏まえた次なる展開

新たな取組みへ
他の界隈へ

Conclusion

終章

終わりに

アドバイザーからのメッセージ

都市デザイン



倉田 直道 氏
.....
工学院大学名誉教授

偶然ではあるがコロナ禍の中で松本城三の丸地区の将来ビジョンを検討することになったことは、松本市の将来のまちづくりを展望すると同時に、SDGs に配慮した将来の暮らしを見つめ直す機会でもあった。松本の豊富な資源（ひと・もの・こと）を活かし、松本スタイルと呼べるような松本独自の暮らしの豊かさを希求することが松本のブランディングであり、単なる物見遊山ではない次の時代のツーリズム（観光）の価値創造にも繋がるものである。

交通計画



久保田 尚 氏
.....
埼玉大学教授

松本城三の丸エリアは、城下町特有の曲がりくねった細街路がとても魅力的であり、不意に姿を現す天守閣に心を躍らせたりします。このような魅力を、車社会と共存させることこそが、このエリアの大きなテーマです。さらに、近未来には、「モビリティ」と総称される小型で電動の、さらに一部は自動の乗り物が登場してきます。歴史あるこの地区を未来的な乗り物で快適に移動できる日が遠からず訪れます。それまでに、街の側の準備を整えておきましょう！

歴史・世界遺産



矢野 和之 氏
.....
日本イコモス国内委員会事務局長 / 株式会社文化財保存計画協会代表取締役

歴史都市松本は、お城だけではなく、各所に水が湧き、朝な夕なに異なる表情をみせる山々に囲まれた四季豊かな風景、加えて美味しいお蕎麦と酒など魅力満載です。市民の皆様がその魅力をさらに引き出して享受していくことが必要です。この度の計画策定は、市内に多くある界限に注目しています。その界限を再評価してさらなる松本の魅力を創造して楽しまれることを望みます。

公民連携



山下 裕子 氏
.....
全国まちなか広場研究会理事

もう何十年前から、このまちに通っているだろうか。お城・街道・蕎麦・かつ丼・うなぎ・喫茶店・アート・クラフト・クラシック・紅葉・水辺の風景などなど、目的地をあげたらきりが無い。個性あふれる店と施設が点在し、それらをつなぐ道中も楽しくあきない。それらをつなぐ構想が、モビリティ（移動のしやすさ）が、このたびの構想でますます！ふくよかになりそうだ。これからの松本の未来を、ますます！楽しみにしております。